

福知山市
自殺対策に関するアンケート調査
結果報告書

2024（令和6）年3月

福 知 山 市

目 次

I	調査の概要.....	1
1	調査の目的	1
2	調査対象	1
3	調査期間	1
4	調査方法	1
5	回収状況	1
6	調査結果の表示方法	1
II	調査結果.....	2
1	回答者属性	2
2	あなたの最近の健康状態と普段の生活について	4
3	自殺に対する意識について	16
4	今後の自殺対策について	25
5	自由意見について	28

I 調査の概要

1 調査の目的

調査は、福知山市にお住まいの18歳以上の市民を対象として、現在の市民の健康状態と普段の生活のあり方を把握するとともに、自殺に対する意識や考え方等を調査し、自殺対策計画策定の基礎資料や本市の施策の参考資料とする。

2 調査対象

福知山市在住の18歳以上の人の中から、年代別に合計2,000人を無作為抽出
(令和5年8月1日現在の住民基本台帳登録者より抽出)

3 調査期間

令和5年8月28日から9月12日まで

4 調査方法

郵送による配布・回収／ウェブによる回答

5 回収状況

調査票種別	配布数	有効回答数	有効回答率
①18～19歳	80通	14通	17.5%
②20～29歳	230通	46通	20.0%
③30～39歳	260通	92通	35.4%
④40～49歳	320通	108通	33.8%
⑤50～59歳	280通	122通	43.6%
⑥60～69歳	290通	181通	62.4%
⑦70歳以上	540通	303通	56.1%
⑧年代不明	—	3通	—
合計	2000人	869通 (うちウェブ回答169通)	43.5%

6 調査結果の表示方法

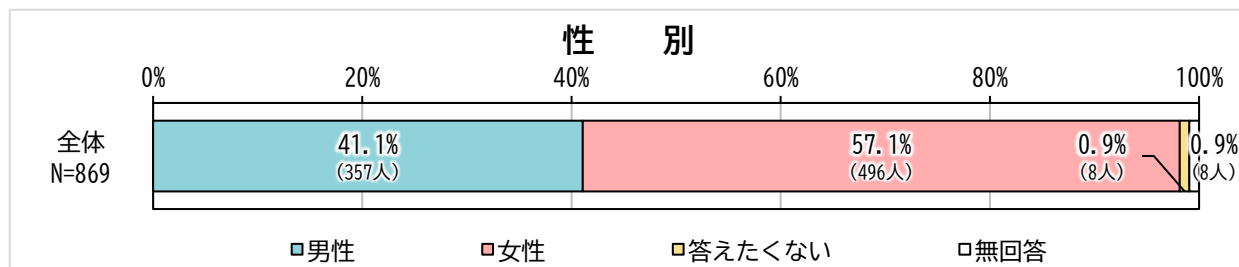
- ・回答は各質問の回答者数(N)を基数とした百分率(%)で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計(全体)の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを  で網かけをしています(無回答を除く)。
- ・設問や選択肢の文言は、簡略化している場合があります。

Ⅱ 調査結果

1 回答者属性

F 1 あなたの性別はどちらですか。(○は1つ)

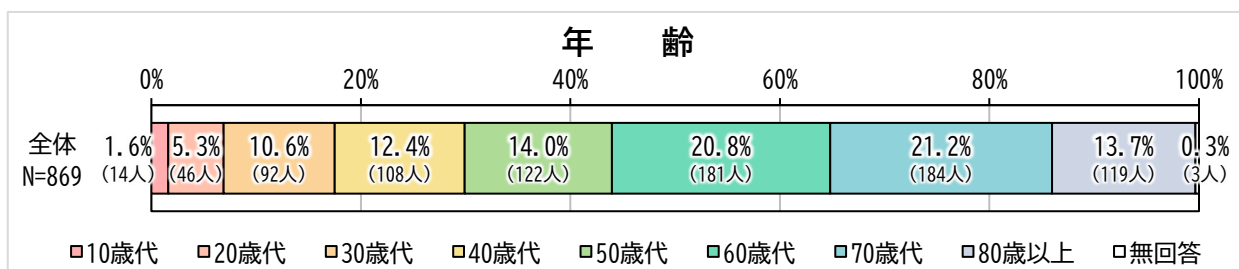
「男性」の割合が41.1%、「女性」の割合が57.1%、「答えたくない」が0.9%となっています。



F 2 あなたの年齢はおいくつですか。(○は1つ)

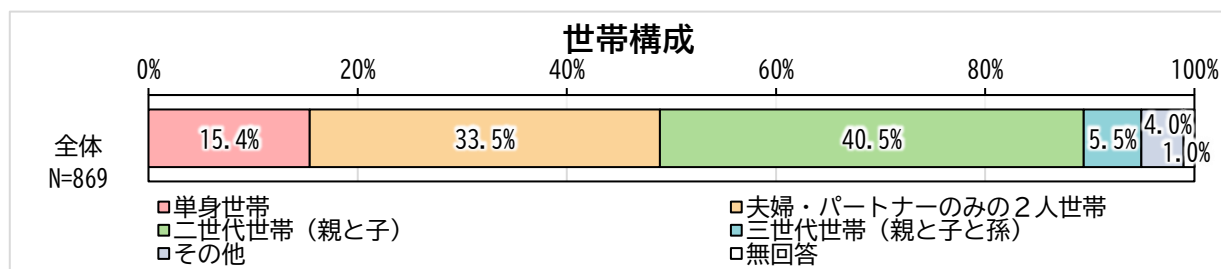
「70 歳代」の割合が21.2%と最も高く、次いで「60 歳代」の割合が20.8%、「80 歳以上」の割合が13.7%となっています。

60 歳以上の割合が55.7%となっています。



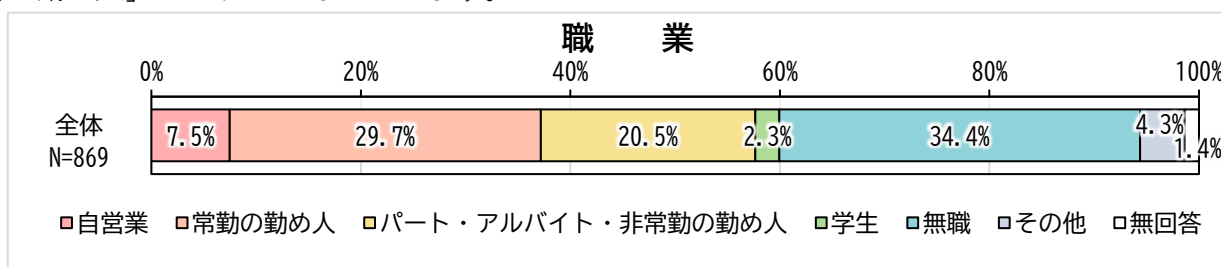
F 3 あなたの世帯構成は次のうちどれですか。(○は1つ)

「二世世代世帯（親と子）」の割合が40.5%と最も高く、次いで「夫婦のみの世帯」が33.5%、「単身世帯」が15.4%となっています。



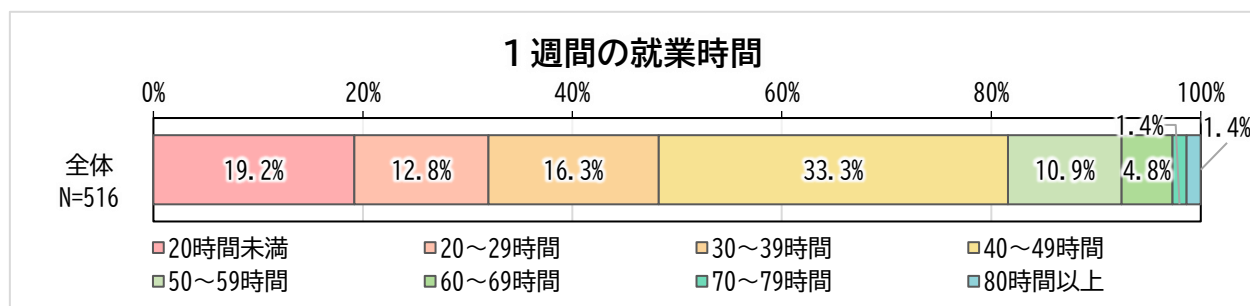
F 4 あなたの職業は次のうちどれですか。(○は1つ)

「無職」の割合が34.4%と最も高く、次いで「常勤の勤め人」が29.7%、「パート・アルバイト・臨時の勤め人」が20.5%となっています。



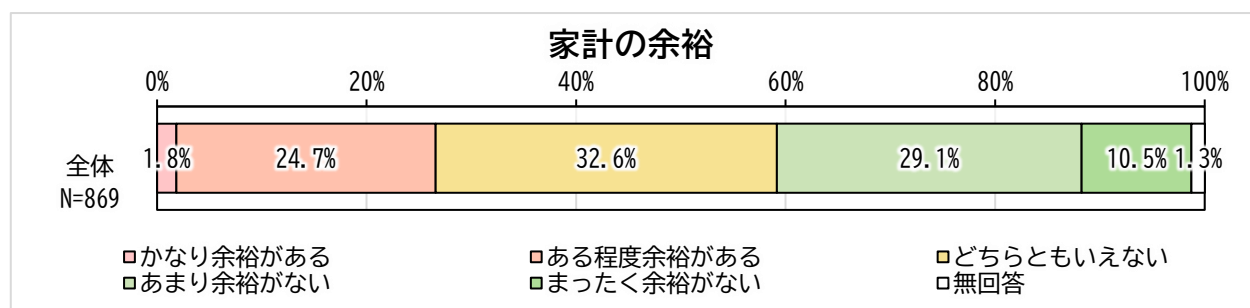
F 5 就業されている方におうかがいします。あなたの一週間の就業時間（残業・副業含む）は何時間でしょうか。（○は1つ）

「40～49 時間」の割合が 33.3%と最も高く、次いで「20 時間未満」が 19.2%、「30～39 時間」が 16.3%となっています。



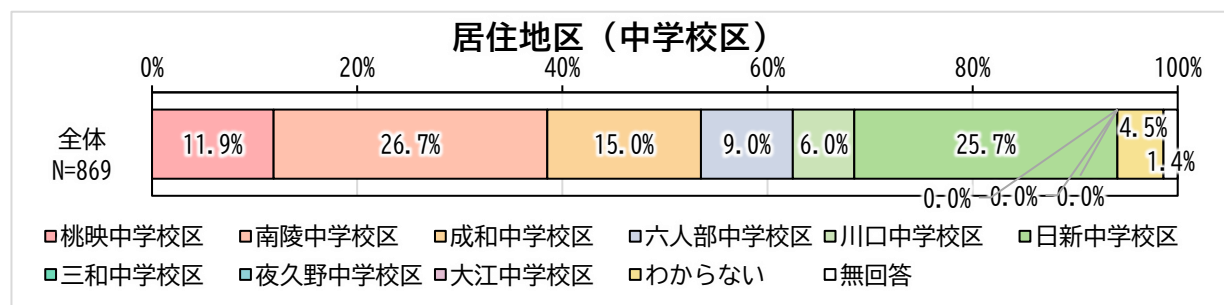
F 6 あなたの家庭の家計の余裕は、次のどれにあてはまりますか。（○は1つ）

「どちらともいえない」の割合が 32.6%と最も高く、次いで「あまり余裕がない」が 29.1%、「ある程度余裕がある」が 24.7%となっています。「かなり余裕がある」（1.8%）と「ある程度余裕がある」を合わせた『余裕がある』が 26.5%で、「あまり余裕がない」と「まったく余裕がない」（10.5%）を合わせた『余裕がない』（39.6%）を下回っています。



F 7 あなたの居住地区はどちらですか。（○は1つ）

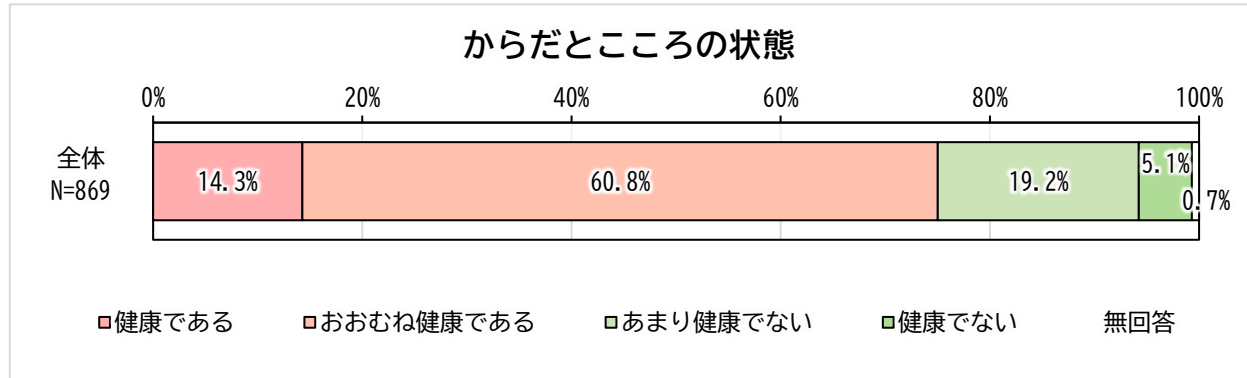
「南陵中学校区」の割合が 26.7%と最も高く、次いで「日新中学校区」が 25.7%、「成和中学校区」が 15.0%となっています。



2 あなたの最近の健康状態と普段の生活について

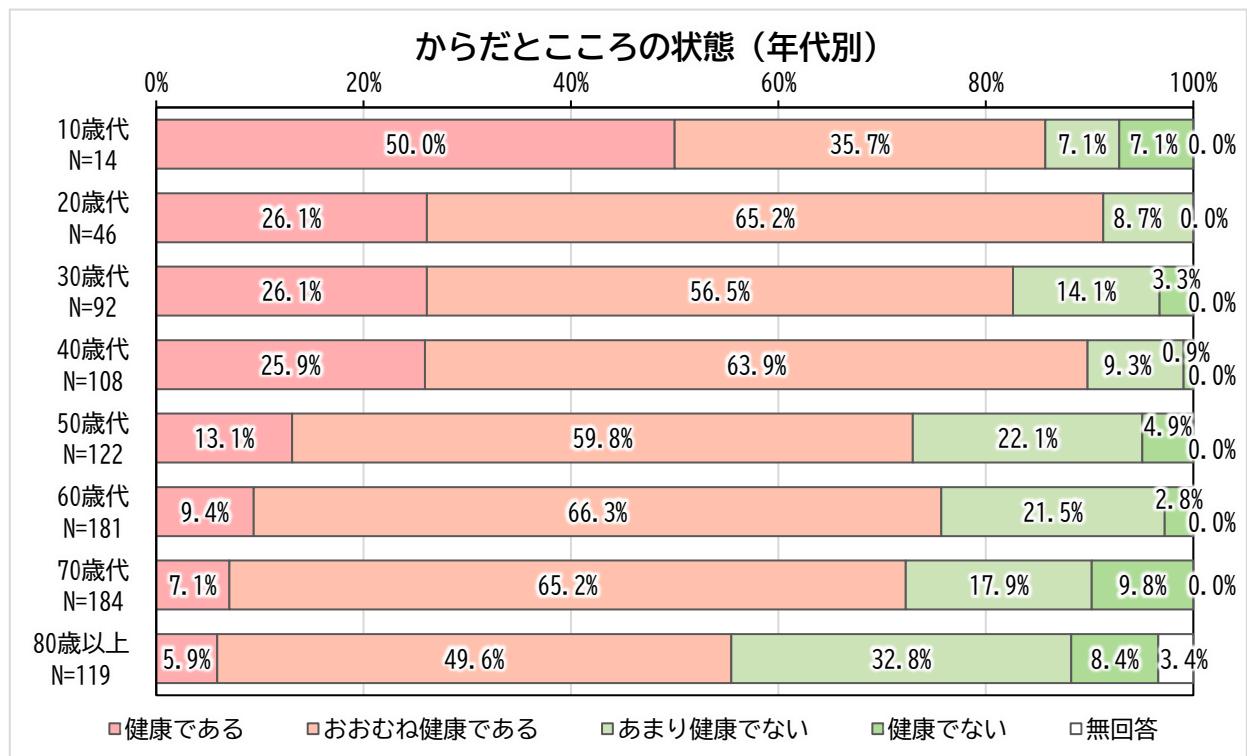
問1 あなたは、現在のからだところの状態についてどのように感じていますか。(○は1つ)

「おおむね健康である」の割合が 60.8%と最も高くなっています。「健康である」(14.3%)と「おおむね健康である」を合わせた『健康である』が 75.1%を占めています。



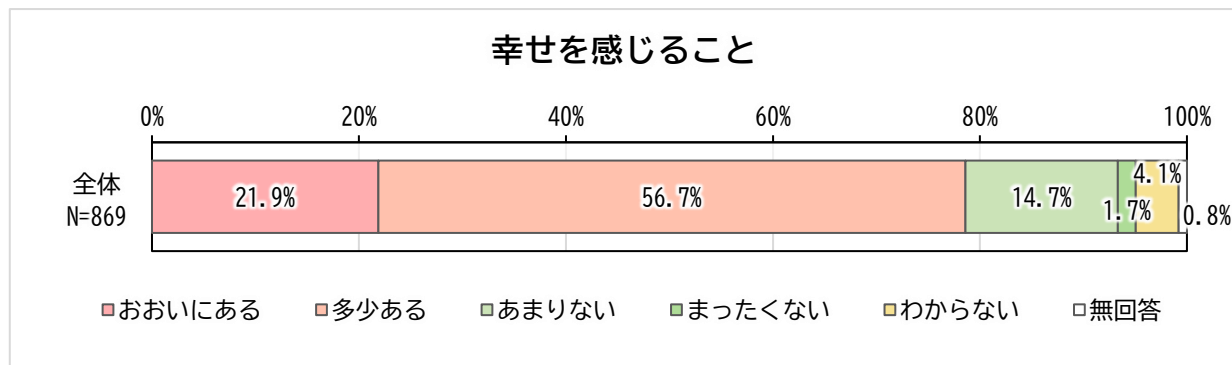
【年代別】

年代別でみると、50 歳代以降の年代で、「あまり健康でない」「健康でない」の割合が高くなっています。



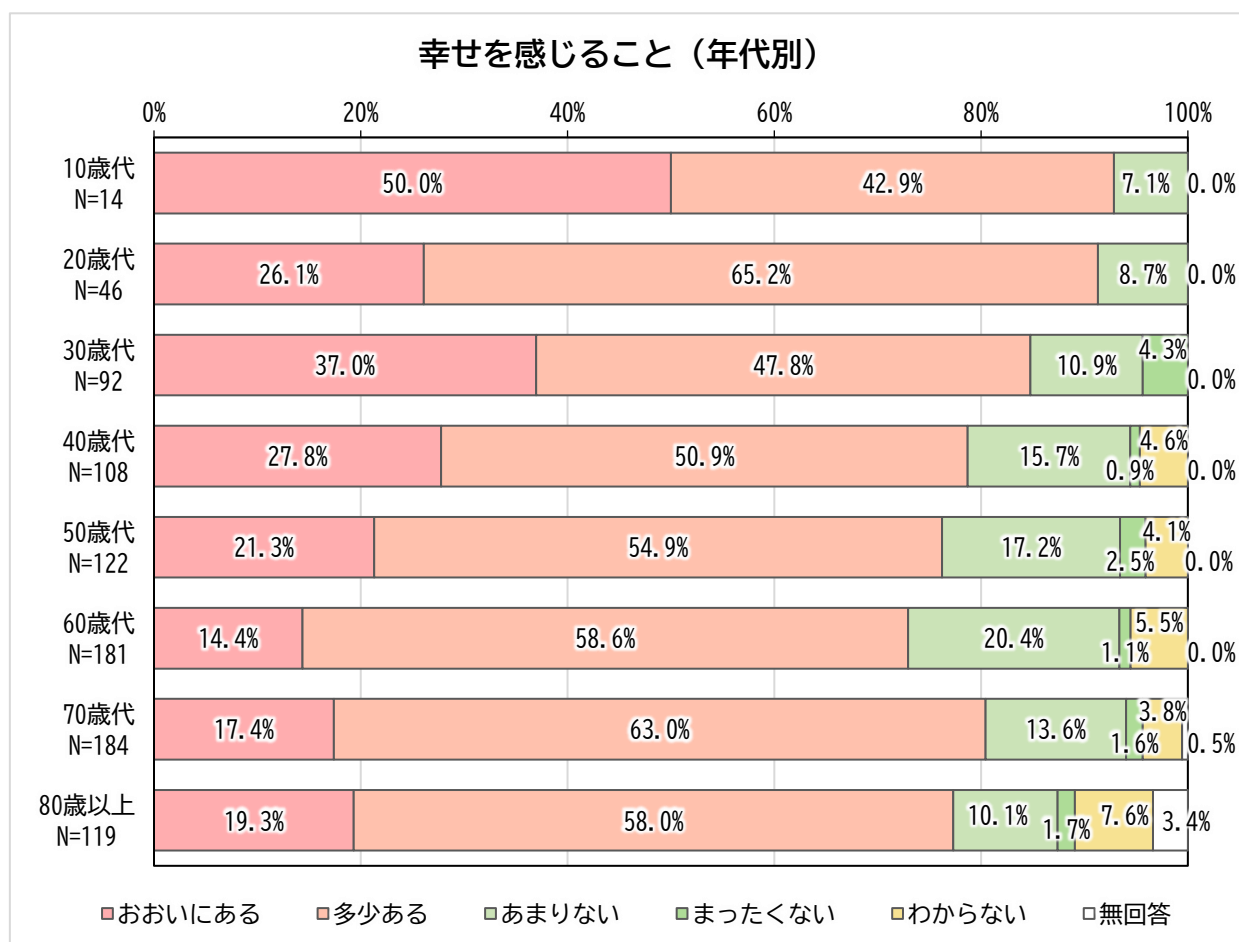
問2 あなたは、普段の生活の中で幸せを感じることはありますか。(〇は1つ)

「多少ある」の割合が 56.7%と最も高くなっています。「おおいにある」(21.9%)と「多少ある」を合わせた『幸せを感じることもある』が78.6%を占めています。



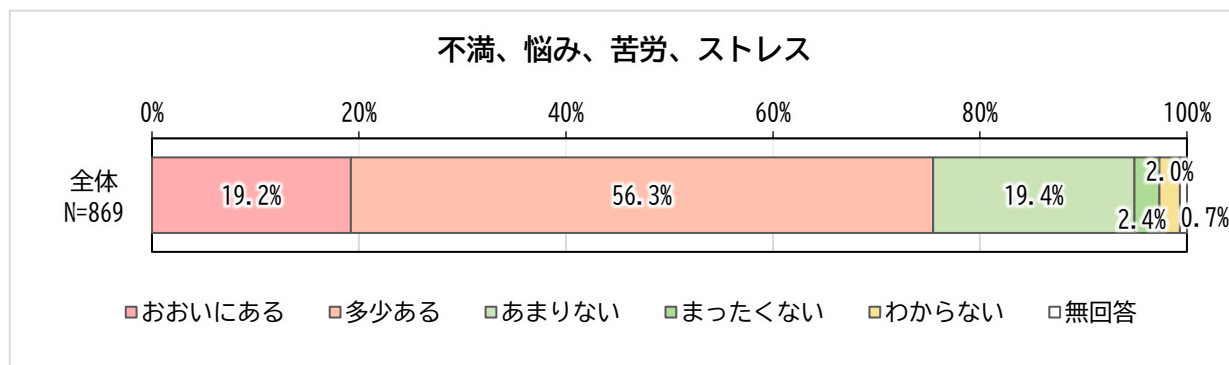
【年代別】

年代別でみると、「おおいにある」の割合が10歳代は5割、30歳代では約4割を占めています。一方、60歳代は「おおいにある」の割合が最も低く、「あまりない」が最も高くなっています。



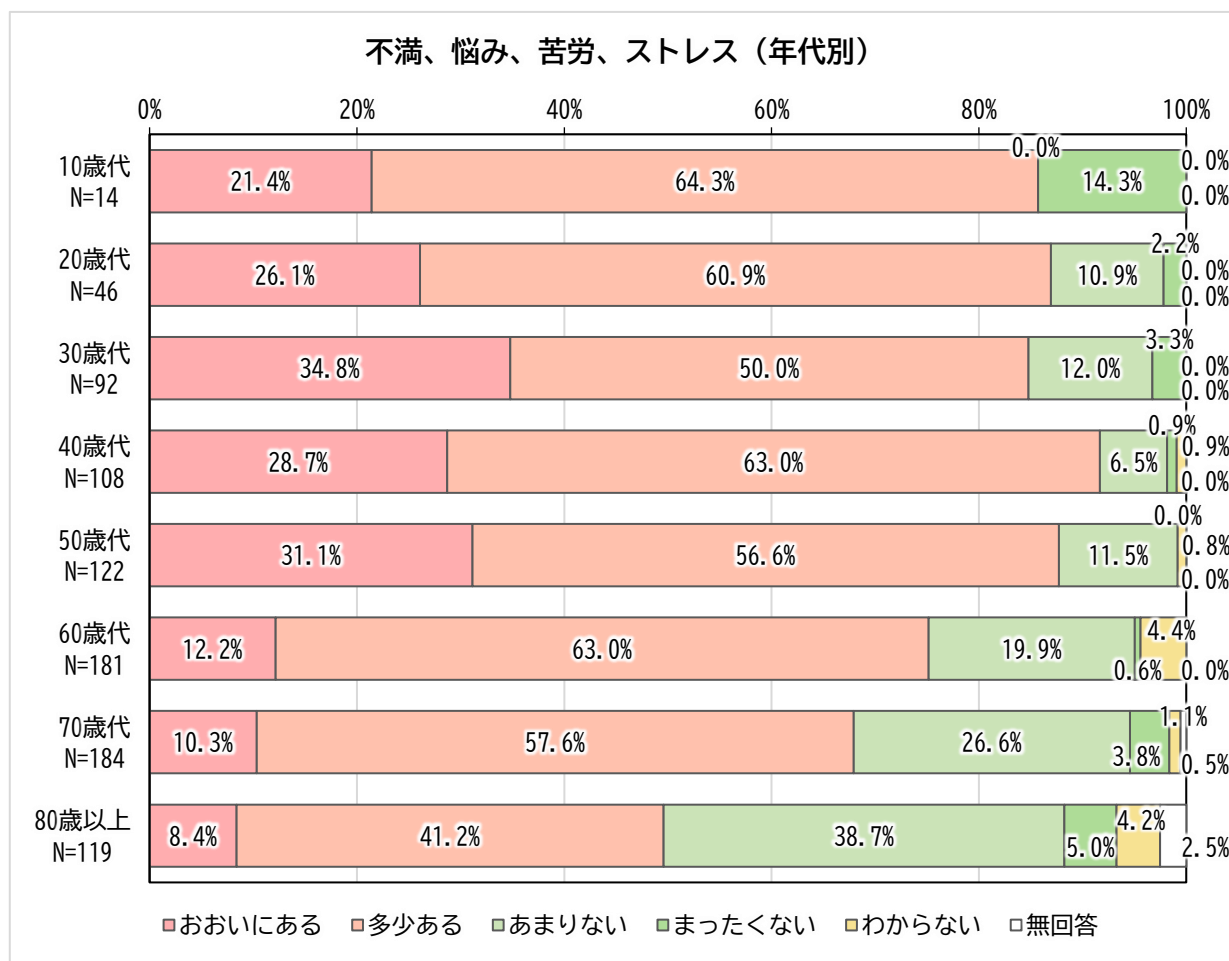
問3 あなたは、この1か月くらいで、不満、悩み、苦労、ストレスを感じることはありましたか。(〇は1つ)

「多少ある」の割合が 56.3%と最も高くなっています。「おおいにある」(19.2%)と「多少ある」を合わせた「不満、悩み、苦労、ストレスを感じる」が75.5%を占めています。



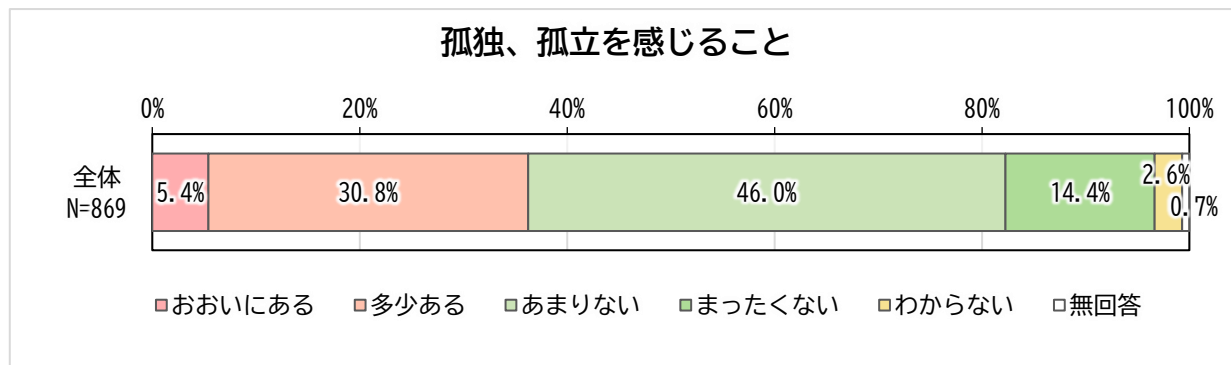
【年代別】

年代別でみると、20歳代から50歳代では「おおいにある」の割合が3割前後となっており、60歳代以降は1割前後となっています。80歳以上は「あまりない」が約4割を占めています。



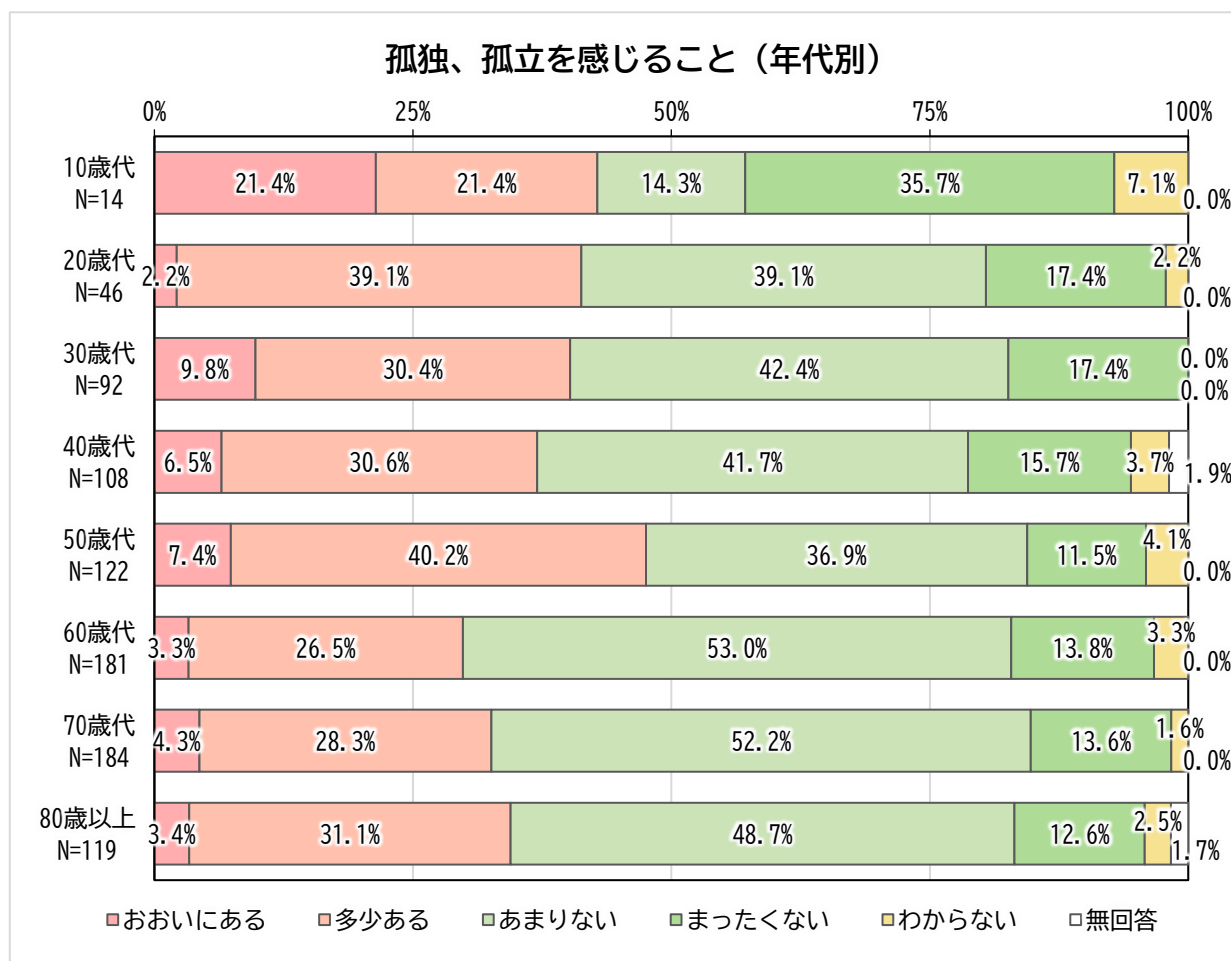
問4 あなたは、普段の生活の中で孤独、孤立を感じることはありましたか。(〇は1つ)

「あまりない」の割合が46.0%と最も高く、次いで「多少ある」が30.8%となっています。「あまりない」と「まったくない」(14.4%)を合わせた『孤独、孤立を感じない』が60.4%を占めています。



【年代別】

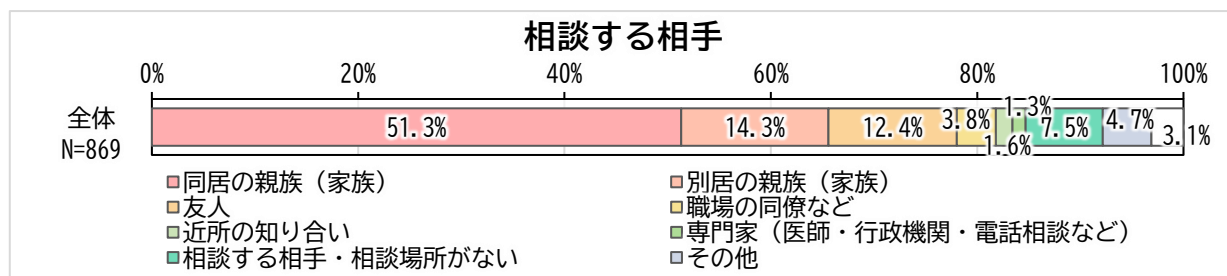
年代別でみると、50歳代は「おおいにある」と「多少ある」を合わせた『孤独、孤立を感じる』の割合が47.6%を占めています。一方、60歳以上は「あまりない」と「まったくない」を合わせた『孤独、孤立を感じない』が6割以上を占めています。



問5 あなたは、普段、悩みや困ったことをまず最初にどなたに相談しますか。(〇は1つ)

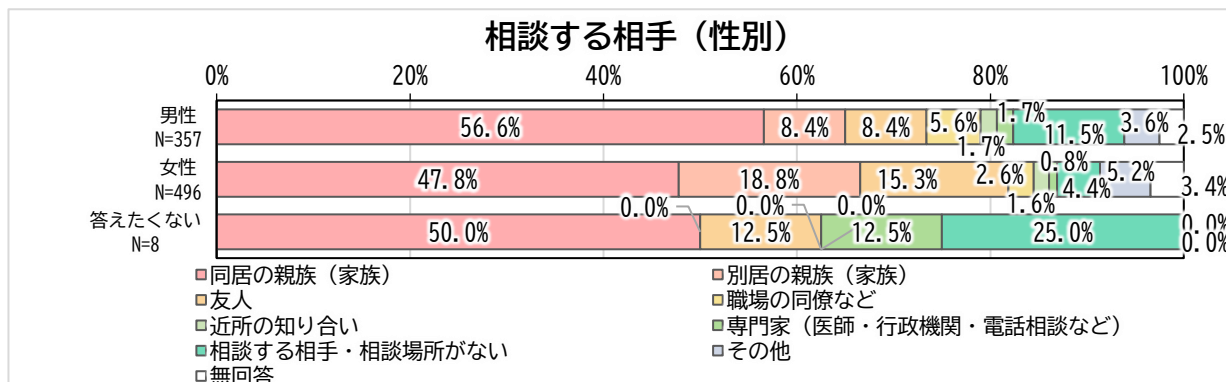
「同居の親族（家族）」の割合が51.3%と最も高くなっています。「同居の親族（家族）」と「別居の親族（家族）」（14.3%）を合わせた「親族（家族）」が65.6%を占めています。

一方、「相談する相手・相談場所がない」が7.5%となっています。



【性別】

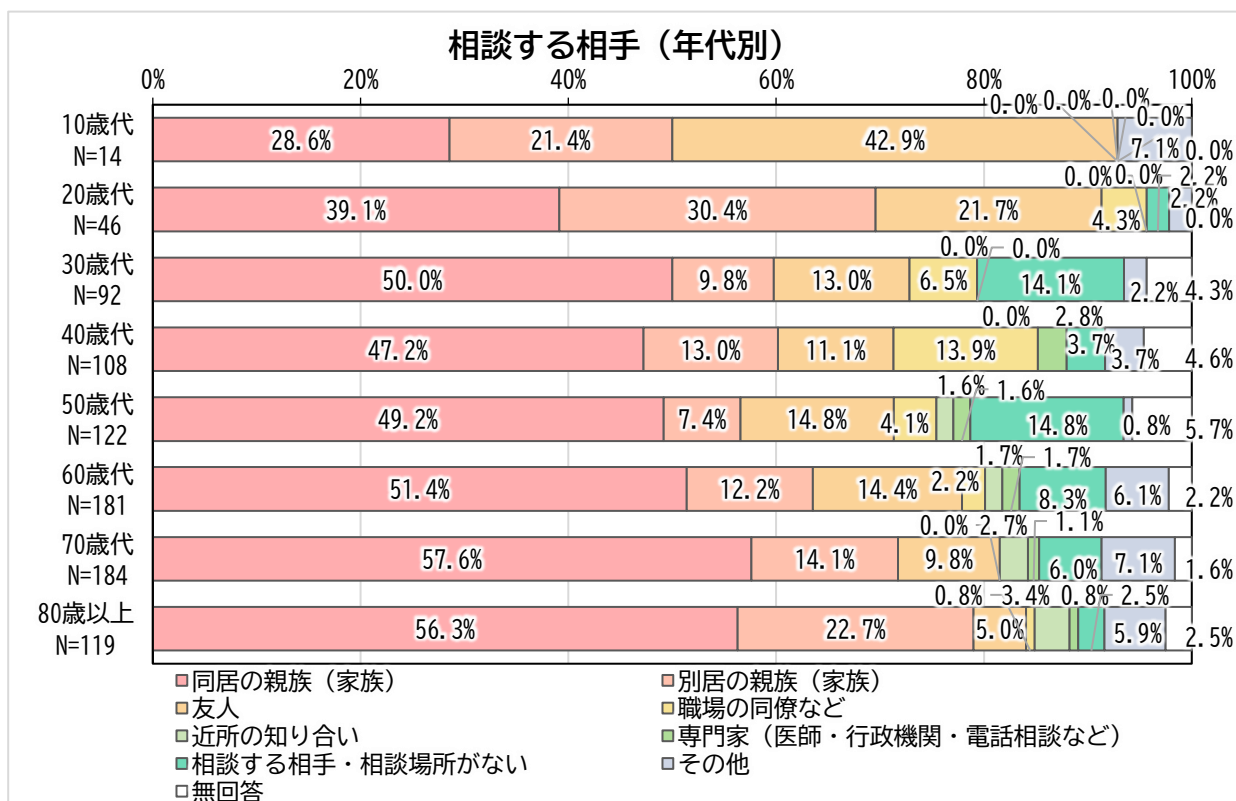
性別でみると、女性は男性より「別居の親族（家族）」と「友人」の割合が、男性は女性より「同居の親族（家族）」と「相談する相手・相談場所がない」が、高くなっています。



【年代別】

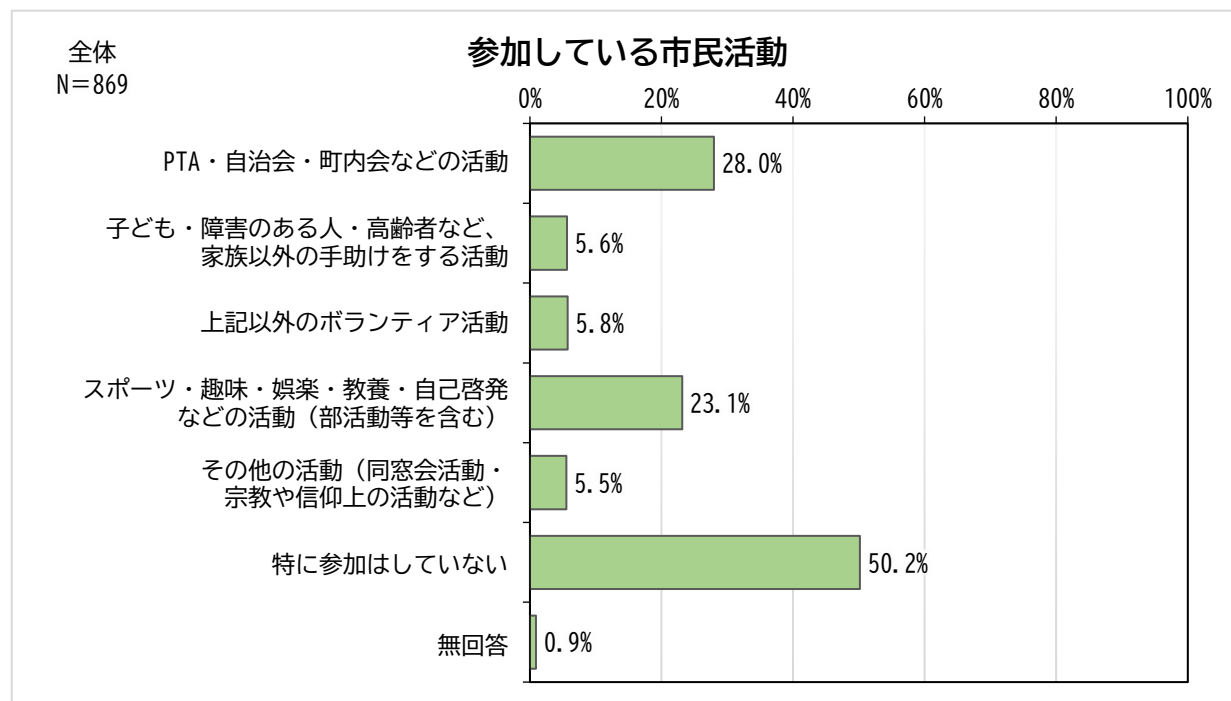
年代別でみると、60歳以上は「同居の親族（家族）」の割合が半数以上を占めています。

一方、30歳代と50歳代は「相談する相手・相談場所がない」が1割を超えています。



問6 あなたは現在、どのような市民活動に参加をしていますか。人と交流する活動についてお答えください。（あてはまるもの全てに○）

「特に参加はしていない」の割合が 50.3%と最も高く、次いで「PTA・自治会・町内会などの活動」が 28.0%、「スポーツ・趣味・娯楽・教養・自己啓発などの活動（部活動等を含む）」が 23.1%となっています。



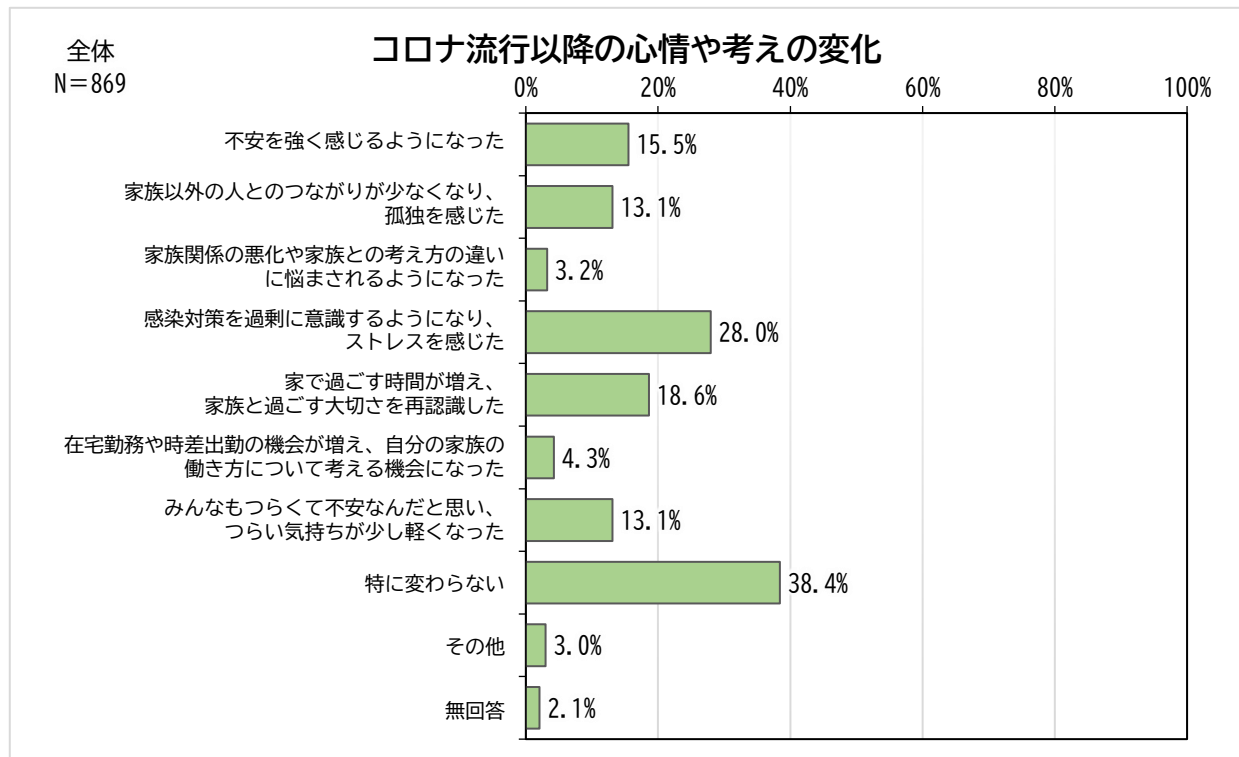
【年代別】

年代別でみると、どの年代も「特に参加はしていない」の割合が最も高くなっています。次いで割合が高い選択肢は、10歳代から20歳代と70歳以上は「スポーツ・趣味・娯楽・教養・自己啓発などの活動（部活動等を含む）」、30歳代から60歳代は「PTA・自治会・町内会などの活動」となっています。

区分	10歳代 N=14	20歳代 N=46	30歳代 N=92	40歳代 N=108	50歳代 N=122	60歳代 N=181	70歳代 N=184	80歳以上 N=119
PTA・自治会・町内会などの活動	0.0%	6.5%	26.1%	40.7%	31.1%	33.1%	24.5%	24.4%
子ども・障害のある人・高齢者など、家族以外の手助けをする活動	7.1%	4.3%	2.2%	3.7%	5.7%	5.0%	7.6%	8.4%
上記以外のボランティア活動	7.1%	0.0%	0.0%	6.5%	7.4%	6.1%	8.2%	5.9%
スポーツ・趣味・娯楽・教養・自己啓発などの活動（部活動等を含む）	28.6%	17.4%	8.7%	25.9%	20.5%	17.7%	32.6%	30.3%
その他の活動（同窓会活動・宗教や信仰上の活動など）	0.0%	2.2%	0.0%	2.8%	6.6%	7.2%	7.1%	8.4%
特に参加はしていない	71.4%	69.6%	65.2%	42.6%	50.8%	46.4%	46.2%	47.1%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%	0.5%	2.5%

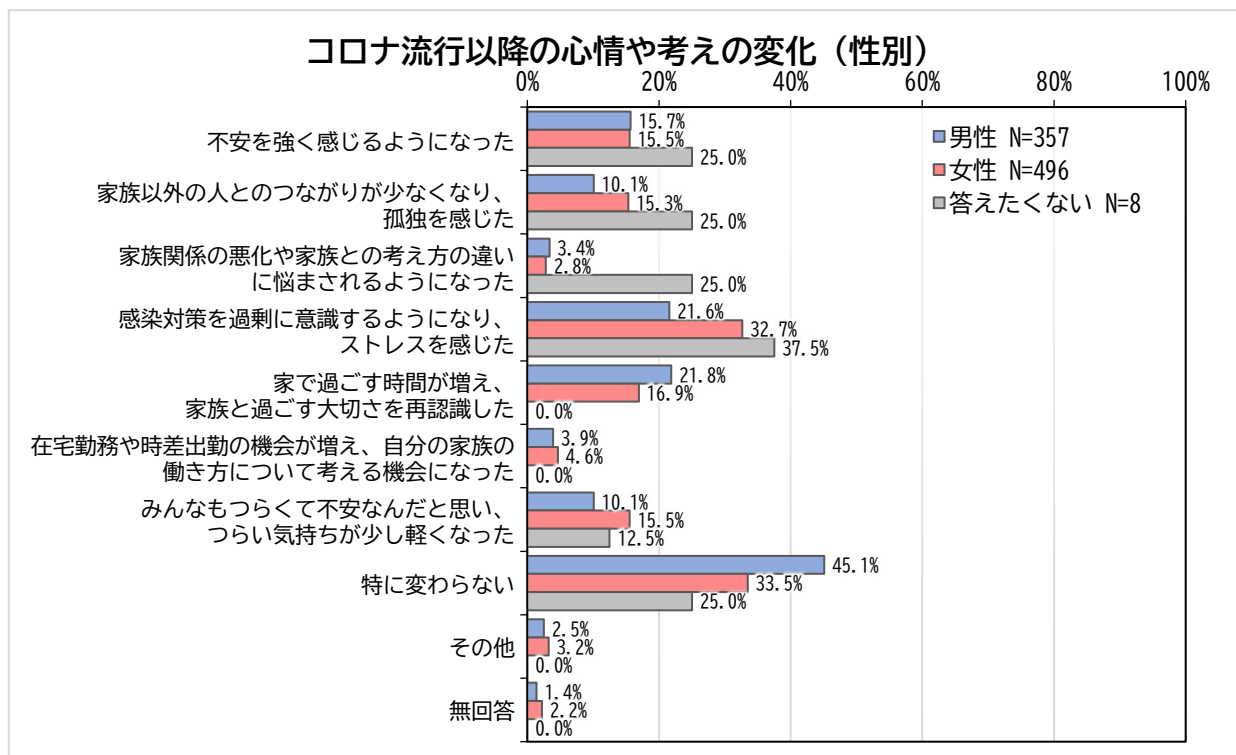
問7 新型コロナウイルス感染症流行以降、あなたの心情や考えに変化がありましたか。(あてはまるもの全てに○)

「特に変わらない」の割合が 38.4%と最も高く、次いで「感染対策を過剰に意識するようになり、ストレスを感じた」が 28.0%、「家で過ごす時間が増え、家族と過ごす大切さを再認識した」が 18.6%となっています。



【性別】

性別でみると、男性は女性より「特に変わらない」の割合が、女性は男性より「感染対策を過剰に意識するようになり、ストレスを感じた」と「みんなもつらくて不安なんだと思い、つらい気持ちが少し軽くなった」、「家族以外の人とのつながりが少なくなり、孤独を感じた」が高くなっています。



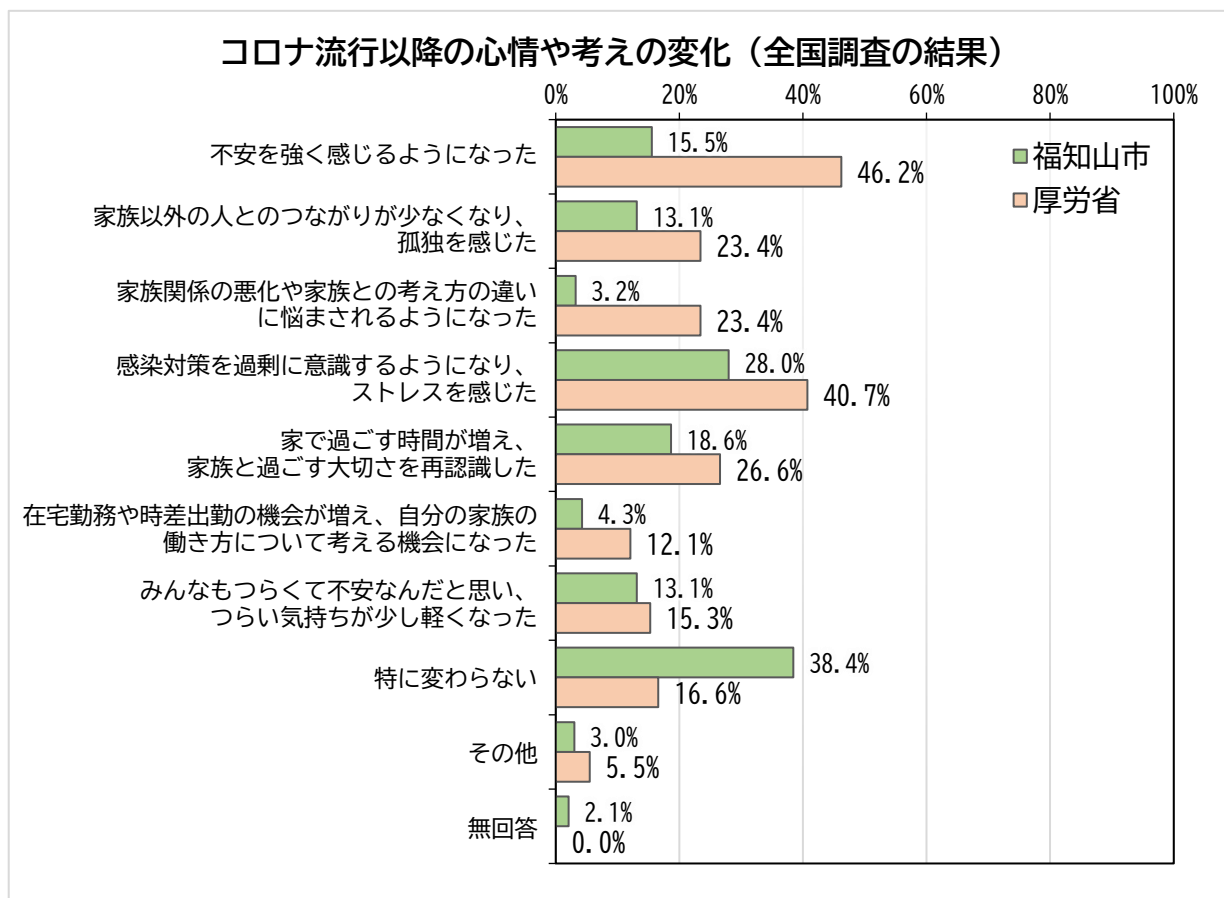
【年代別】

年代別でみると、40 歳代は「感染対策を過剰に意識するようになり、ストレスを感じた」の割合が、その他の年代は「特に変わらない」が最も高くなっています。

区分	10 歳代 N=14	20 歳代 N=46	30 歳代 N=92	40 歳代 N=108	50 歳代 N=122	60 歳代 N=181	70 歳代 N=184	80 歳以上 N=119
不安を強く感じるようになった	7.1%	13.0%	20.7%	11.1%	13.9%	16.6%	13.0%	21.8%
家族以外の人とのつながりが少なくなり、孤独を感じた	0.0%	15.2%	14.1%	10.2%	15.6%	12.2%	10.9%	18.5%
家族関係の悪化や家族との考え方の違いに悩まされるようになった	0.0%	0.0%	12.0%	4.6%	2.5%	2.2%	2.2%	0.8%
感染対策を過剰に意識するようになり、ストレスを感じた	21.4%	23.9%	35.9%	34.3%	31.1%	30.9%	22.8%	19.3%
家で過ごす時間が増え、家族と過ごす大切さを再認識した	7.1%	26.1%	18.5%	30.6%	17.2%	12.7%	15.2%	22.7%
在宅勤務や時差出勤の機会が増え、自分の家族の働き方について考える機会になった	0.0%	13.0%	8.7%	7.4%	5.7%	2.8%	1.1%	0.8%
みんなもつらくて不安なんだと思い、つらい気持ちが少し軽くなった	7.1%	4.3%	5.4%	11.1%	10.7%	14.9%	20.1%	14.3%
特に変わらない	64.3%	34.8%	40.2%	28.7%	35.2%	39.8%	45.7%	34.5%
その他	0.0%	6.5%	0.0%	8.3%	5.7%	1.1%	0.5%	3.4%
無回答	0.0%	2.2%	0.0%	0.0%	1.6%	1.7%	1.6%	5.9%

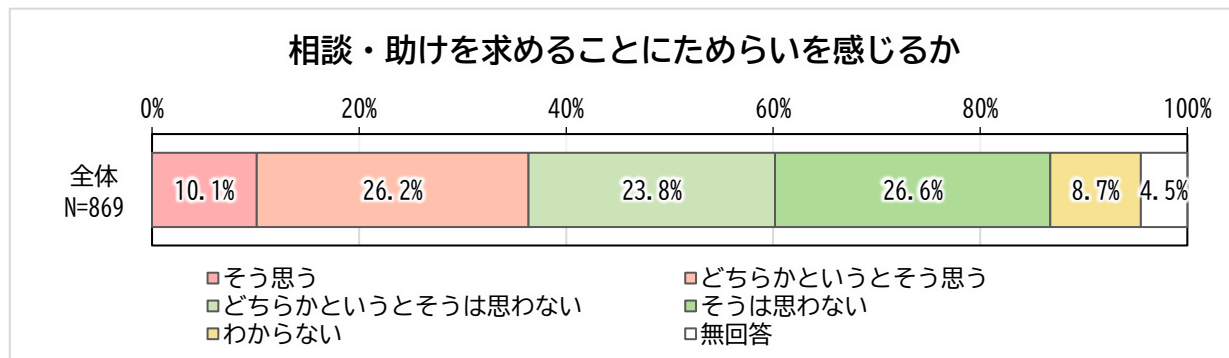
【厚生労働省のアンケート結果（令和3年度実施）との比較】

厚生労働省が令和3年度に実施したアンケート結果と比較すると、「不安を強く感じるようになった」が30.7ポイント低く、「特に変わらない」が21.8ポイント高くなっており、アンケート調査の実施時期の違いによる変化がうかがえます。



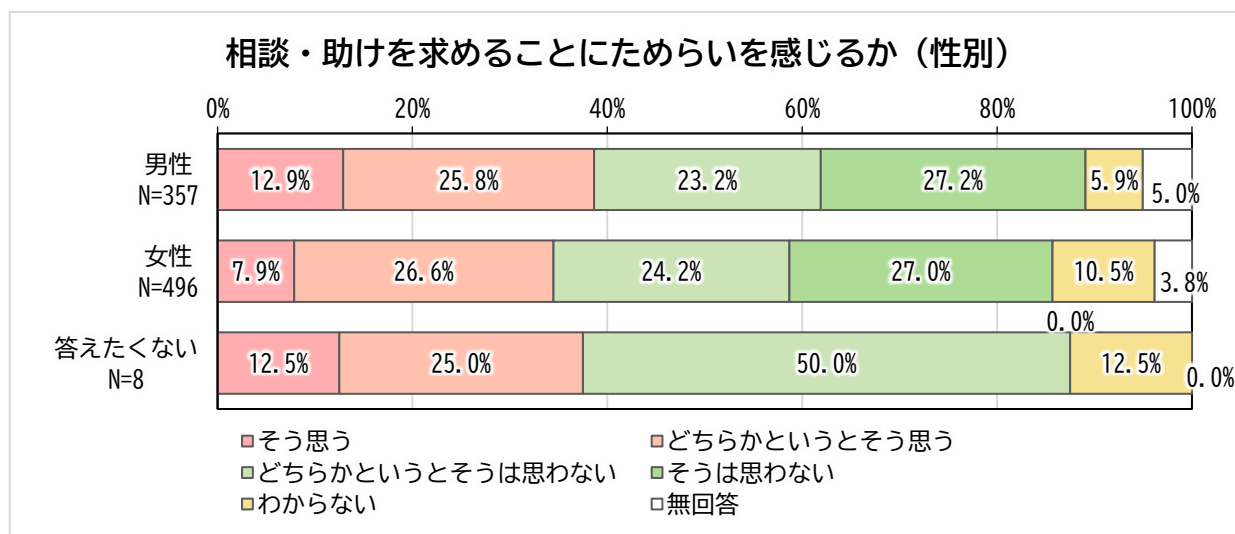
問8 あなたが、悩みを抱えたときやストレスを感じたとき、悩みを相談したり、助けを求めたりすることにためらいを感じますか。(○は1つ)

「そうは思わない」の割合が 26.6%と最も高く、次いで「どちらかというと思う」が 26.2%、「どちらかというとは思わない」が 23.8%となっています。「そう思う」(10.1%)と「どちらかというと思う」を合わせた『思う(ためらいを感じる)』が 36.3%で、「どちらかというとは思わない」と「そうは思わない」を合わせた『思わない』(50.4%)を下回っています。



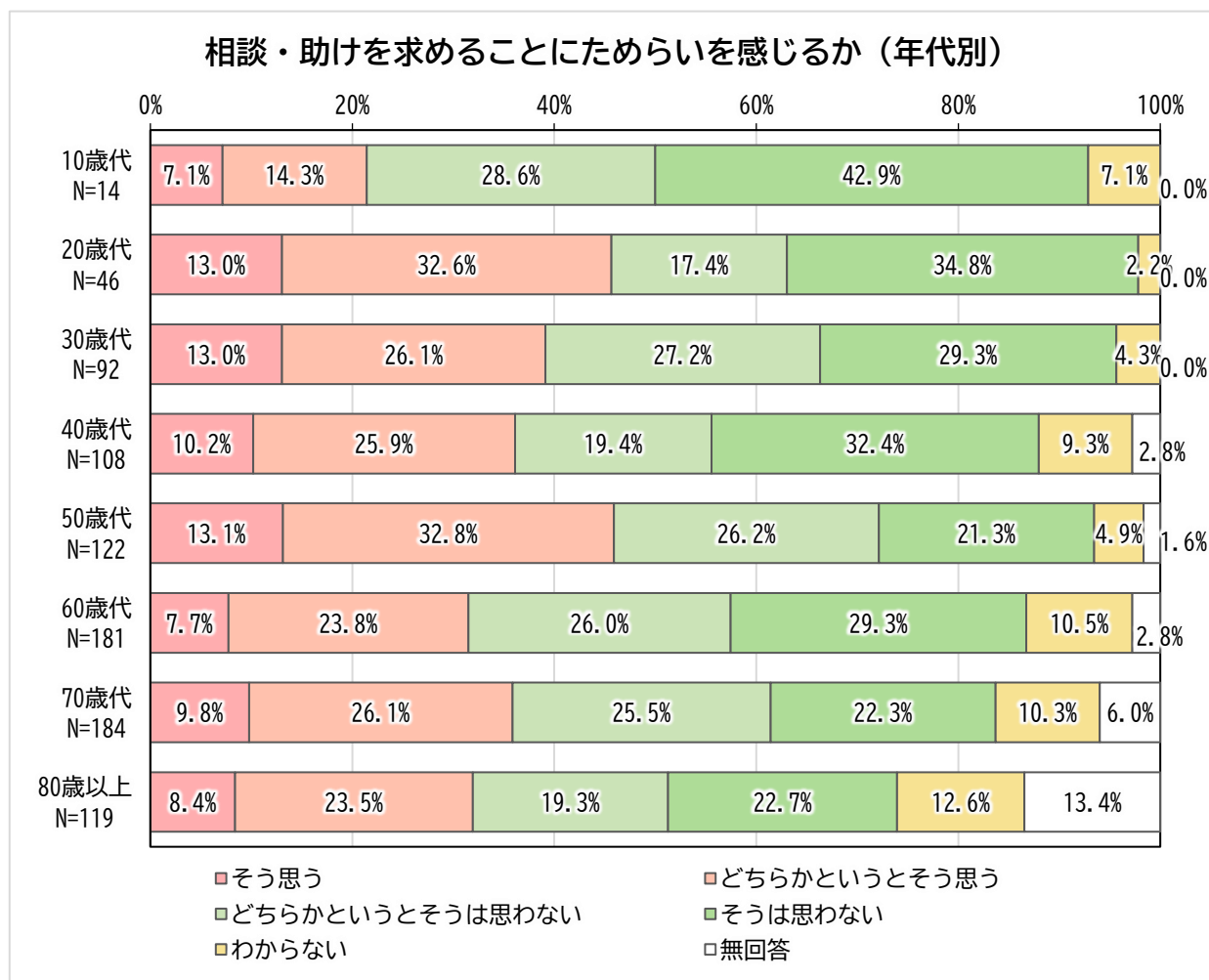
【性別】

性別でみると、男性は女性より「そう思う」の割合が高くなっています。



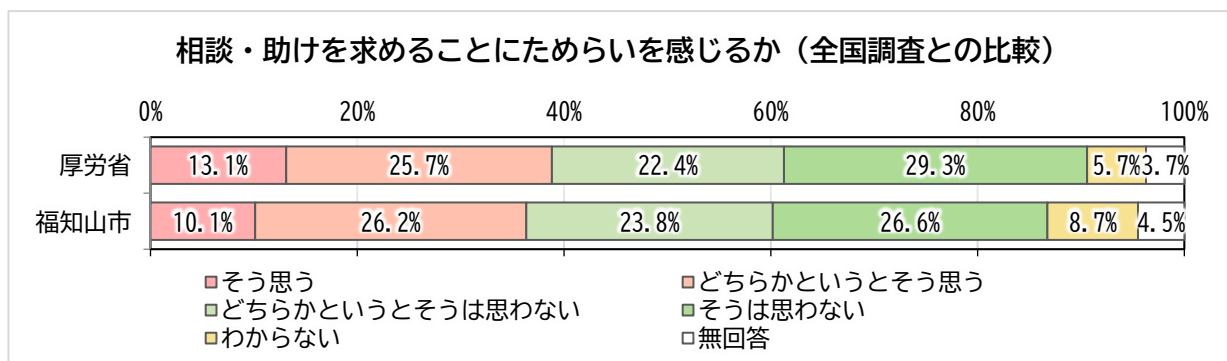
【年代別】

年代別でみると、20歳代と50歳代は「そう思う」と「どちらかというと思う」を合わせた『思う（ためらいを感じる）』が半数近くを占めています。



【厚生労働省のアンケート結果（令和3年度実施）との比較】

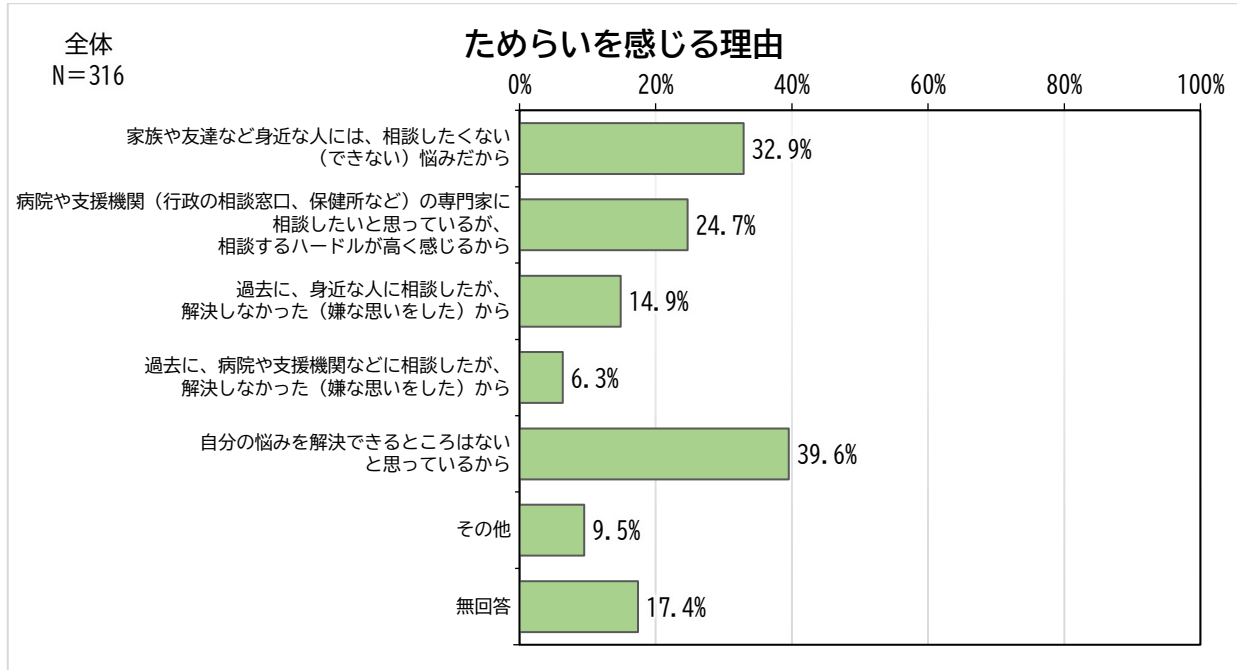
厚生労働省が実施したアンケート結果と比較すると、「そう思う」と「どちらかというと思う」を合わせた『思う（ためらいを感じる）』が2.5ポイント低くなっています。



◆問8で「1. そう思う」、「2. どちらかというと思う」と回答した方におうかがいします。

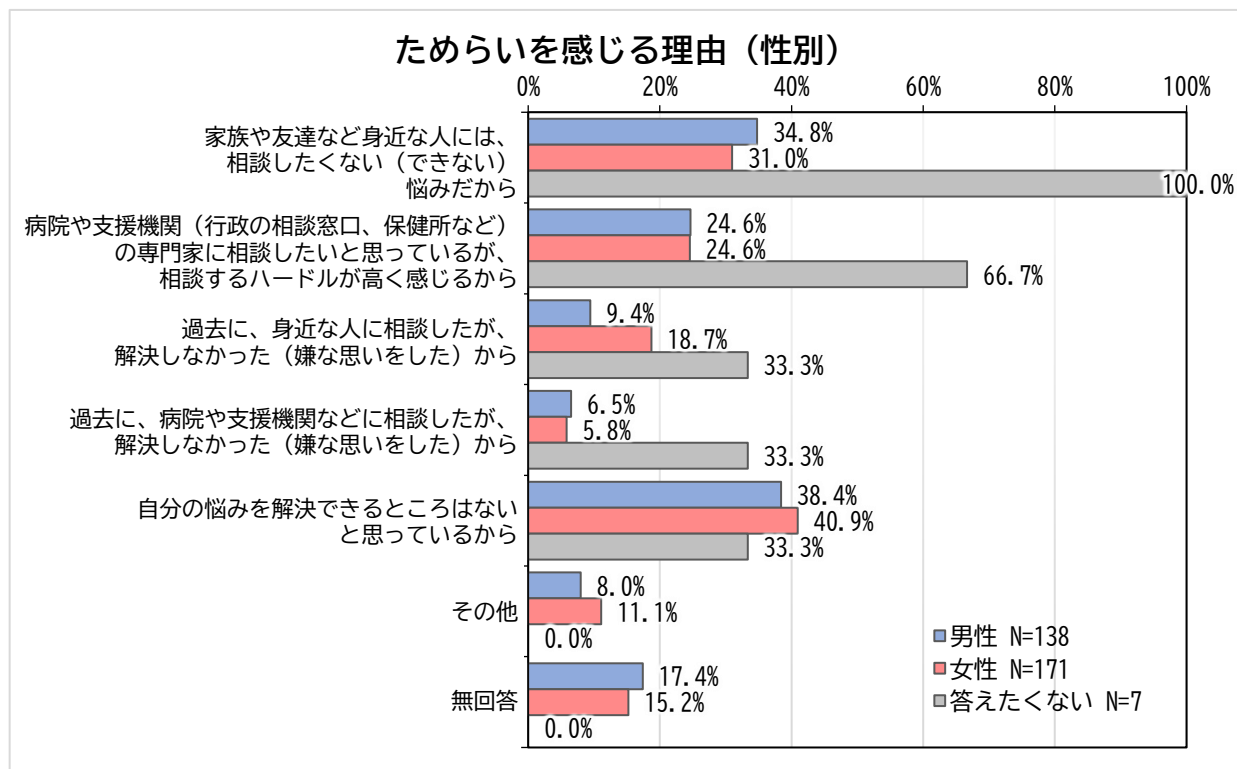
問9 悩みを相談したり、助けを求めたりすることにためらいを感じる理由は何ですか。（あてはまるもの全てに○）

「自分の悩みを解決できる場所はないと思っているから」の割合が39.6%と最も高く、次いで「家族や友達など身近な人には、相談したくない（できない）悩みだから」が32.9%、「病院や支援機関（行政の相談窓口、保健所など）の専門家に相談したいと思っているが、相談するハードルが高く感じるから」が24.7%となっている。



【性別】

性別でみると、女性は男性より「過去に、身近な人に相談したが、解決しなかった（嫌な思いをした）から」の割合が高くなっています。



【年代別】

年代別でみると、10 歳代から 30 歳代では「家族や友達など身近な人には、相談したくない（できない）悩みだから」の割合が、40 歳代から 70 歳代では「自分の悩みを解決できるところはないと思っているから」、80 歳以上は「病院や支援機関（行政の相談窓口、保健所など）の専門家に相談したいと思っているが、相談するハードルが高く感じるから」が最も高くなっています。

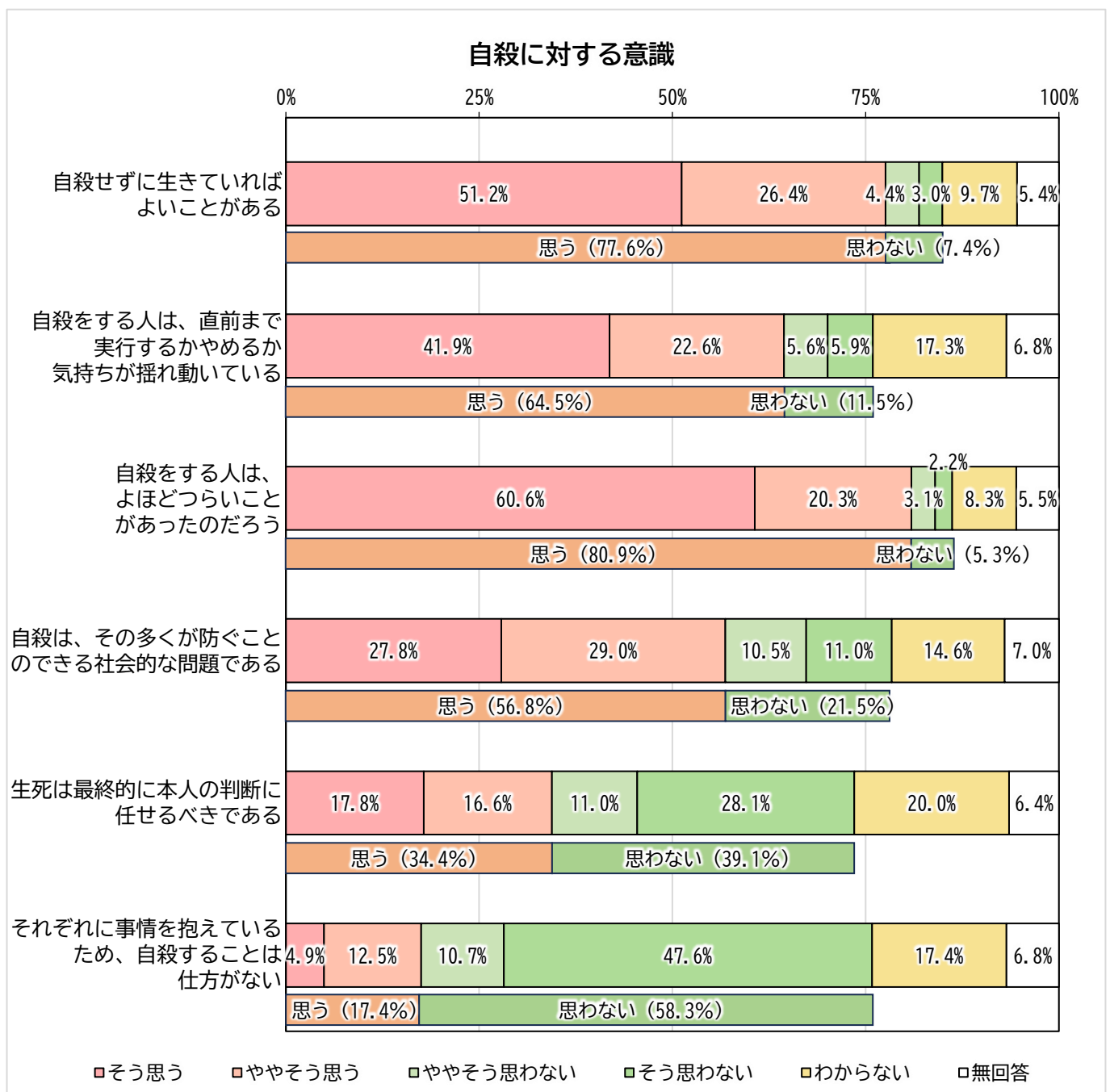
区分	10 歳代 N=3	20 歳代 N=21	30 歳代 N=36	40 歳代 N=39	50 歳代 N=56	60 歳代 N=57	70 歳代 N=66	80 歳以上 N=38
家族や友達など身近な人には、相談したくない（できない）悩みだから	66.7%	42.9%	50.0%	35.9%	32.1%	28.1%	31.8%	15.8%
病院や支援機関の専門家に相談したいと思っているが、相談するハードルが高く感じるから	0.0%	9.5%	25.0%	25.6%	26.8%	19.3%	28.8%	31.6%
過去に、身近な人に相談したが、解決しなかった（嫌な思いをした）から	33.3%	19.0%	27.8%	20.5%	16.1%	19.3%	3.0%	5.3%
過去に、病院や支援機関などに相談したが、解決しなかった（嫌な思いをした）から	0.0%	4.8%	16.7%	10.3%	7.1%	5.3%	3.0%	0.0%
自分の悩みを解決できるところはないと思っているから	0.0%	38.1%	47.2%	38.5%	50.0%	38.6%	36.4%	28.9%
その他	0.0%	28.6%	5.6%	7.7%	1.8%	8.8%	7.6%	21.1%
無回答	0.0%	0.0%	2.8%	10.3%	7.1%	14.0%	25.8%	50.0%

3 自殺に対する意識について

問10 あなたは、自殺についてどのように思いますか。次のaからfのそれぞれについて、あなたの考えに最も近いものに○をつけてください。(○は1つずつ)

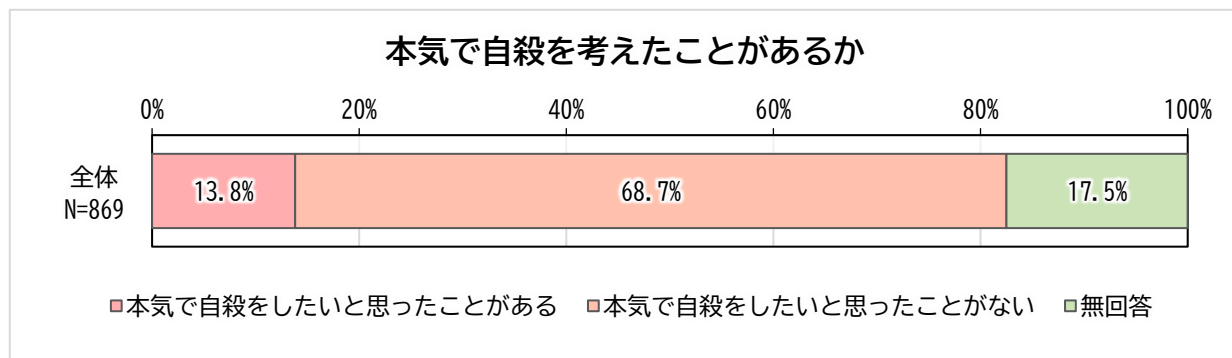
「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた『思う』の割合が、「ややそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『思わない』が上回るのは、“自殺せずに生きていればよいことがある”と“自殺をする人は、直前まで実行するかやめるか気持ちが揺れ動いている”、“自殺をする人は、よほどつらいことがあったのだろう”、“自殺は、その多くが防ぐことのできる社会的な問題である”となっています。

「そう思う」と「ややそう思う」合わせた『思う』の割合が、「ややそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『思わない』が下回るのは、“生死は最終的に本人の判断に任せるべきである”、“それぞれに事情を抱えているため、自殺することは仕方がない”となっています。



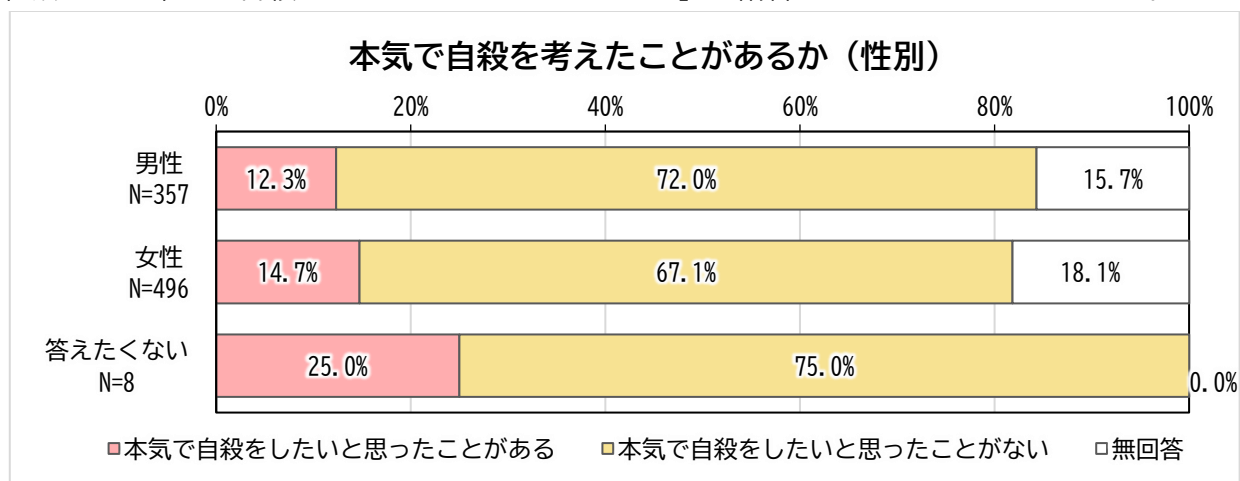
問 11 あなたは、これまでの人生の中で、本気で自殺をしたいと思ったことがありますか。
(○は1つ)

「本気で自殺をしたいと思ったことがある」の割合が13.8%、「本気で自殺をしたいと思ったことがない」が68.7%となっています。



【性別】

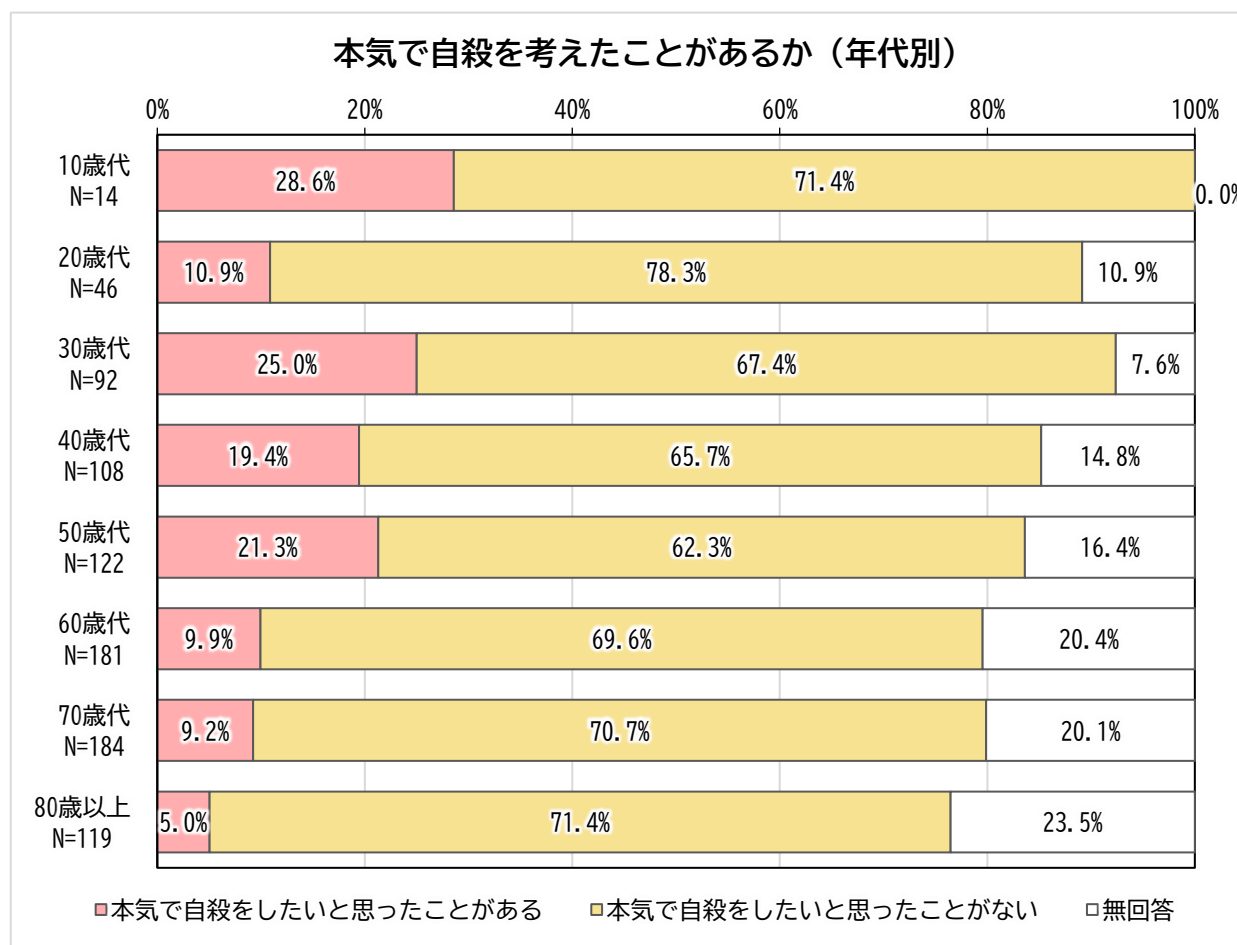
性別では「本気で自殺をしたいと思ったことがある」の割合に大きな差はみられません。



【年代別】

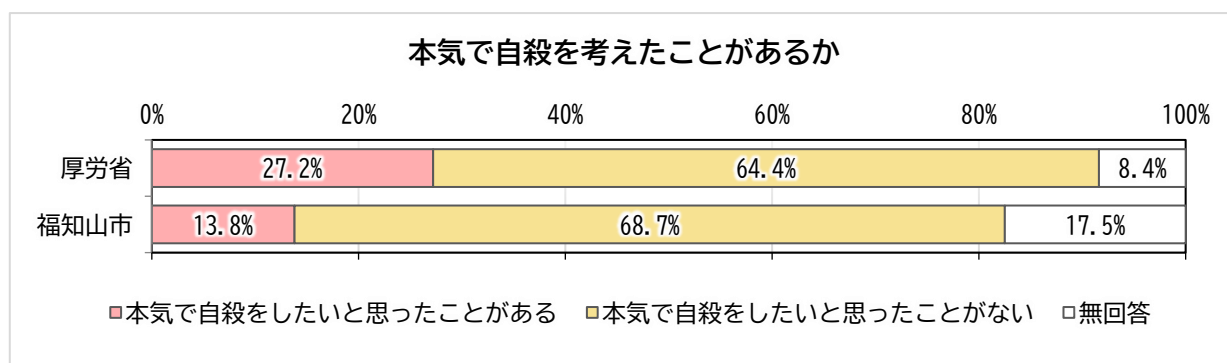
年代別でみると、どの年代も「本気で自殺をしたいと思ったことがない」の割合が6割をこえています。

一方、「本気で自殺をしたいと思ったことがある」が10歳代と30歳代は3割、40歳代と50歳代は2割となっています。



【厚生労働省のアンケート結果（令和3年度実施）との比較】

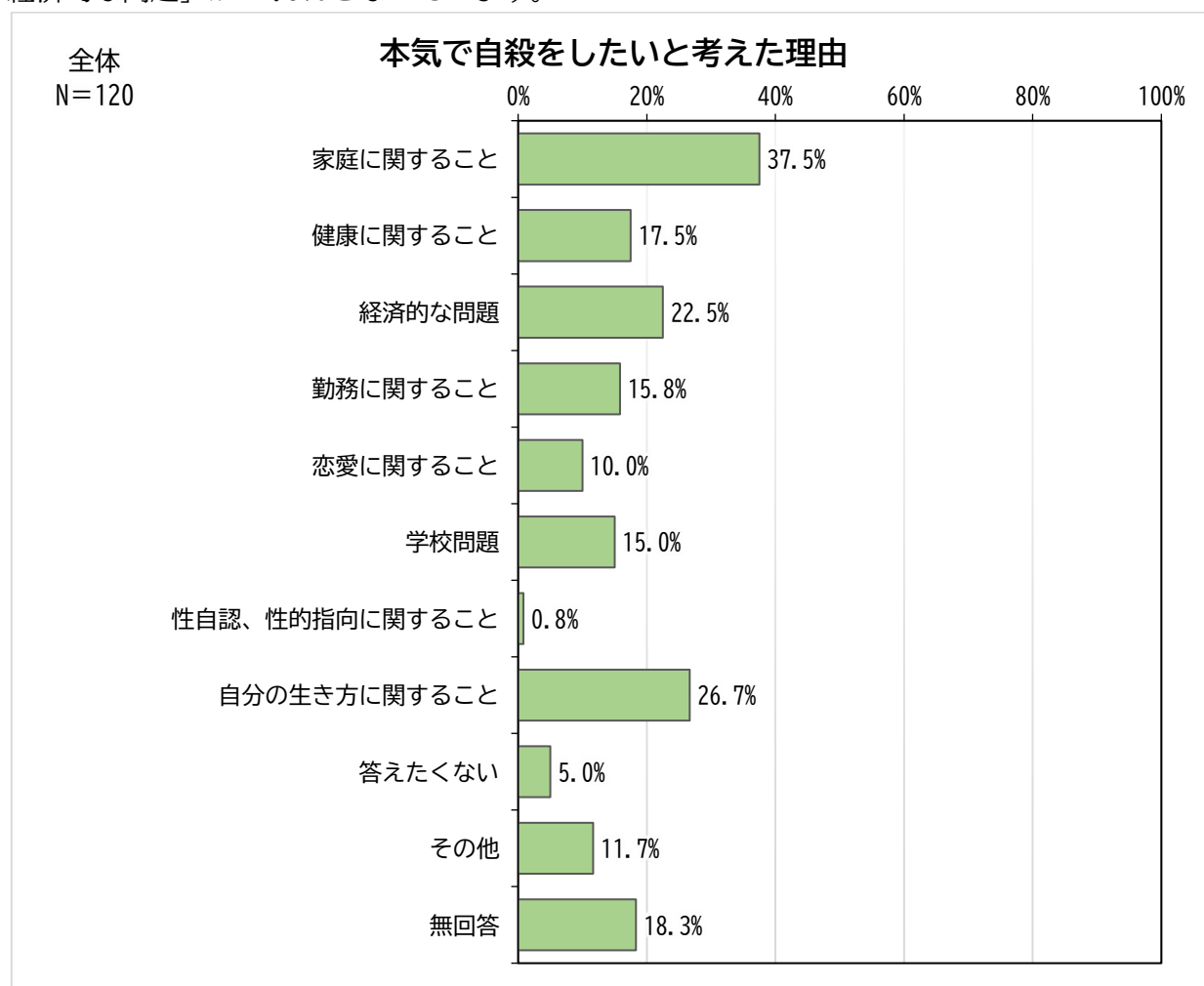
厚生労働省のアンケート結果と比較すると、「本気で自殺をしたいと思ったことがある」の割合は13.4ポイント低くなっていますが、「無回答」の割合は9.1ポイント高くなっています。



◆問 11 で「1. 本気で自殺をしたいと思ったことがある」と回答した方におうかがいします。

問 12-1 本気で自殺をしたいと考えた理由をお答えください。(あてはまるもの全てに○)

「家庭に関すること」の割合が最も高く 37.5%、次いで「自分の生き方に関すること」が 28.9%、「経済的な問題」が 22.5%となっています。



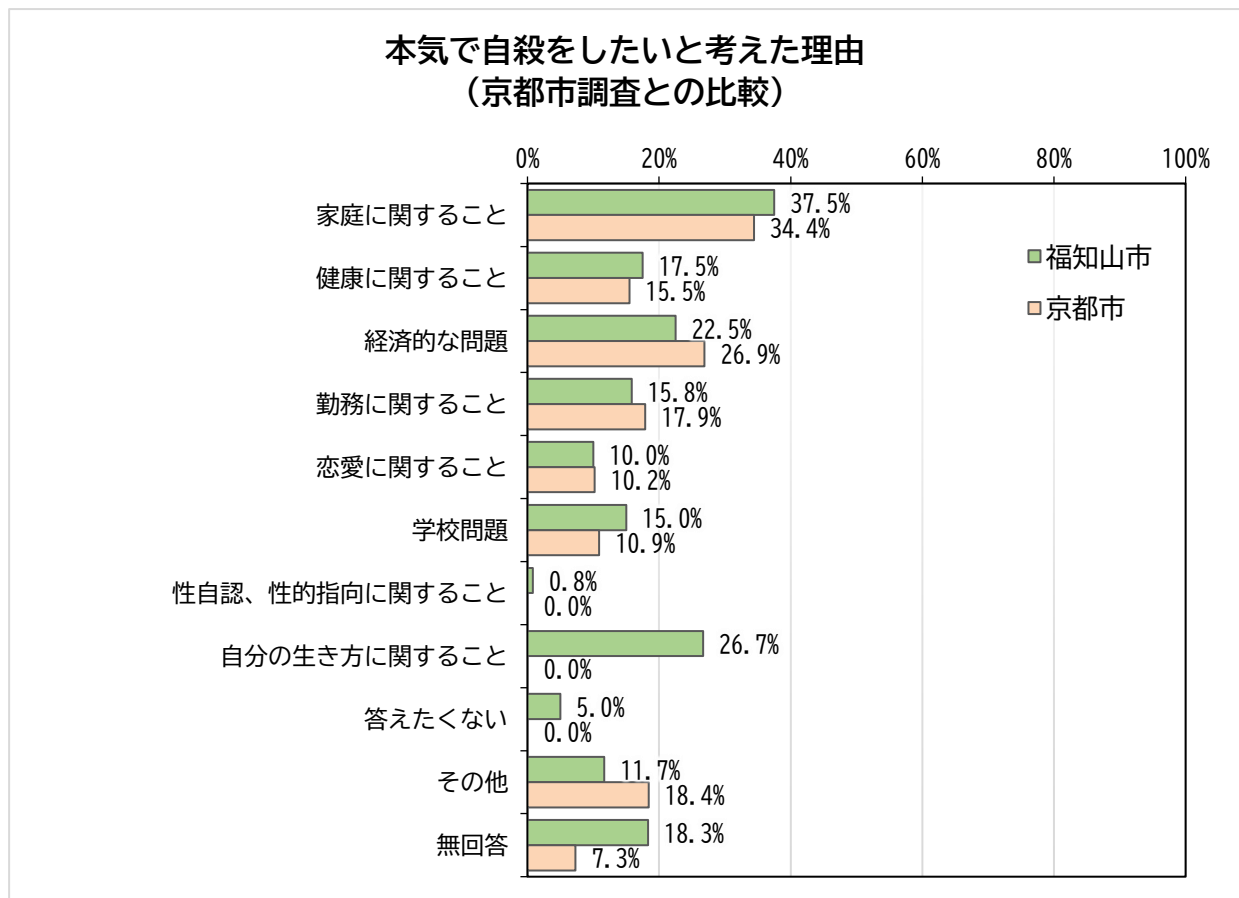
【年代別】

年代別でみると、30 歳代から 70 歳代では「家庭に関すること」の割合が最も高くなっています。

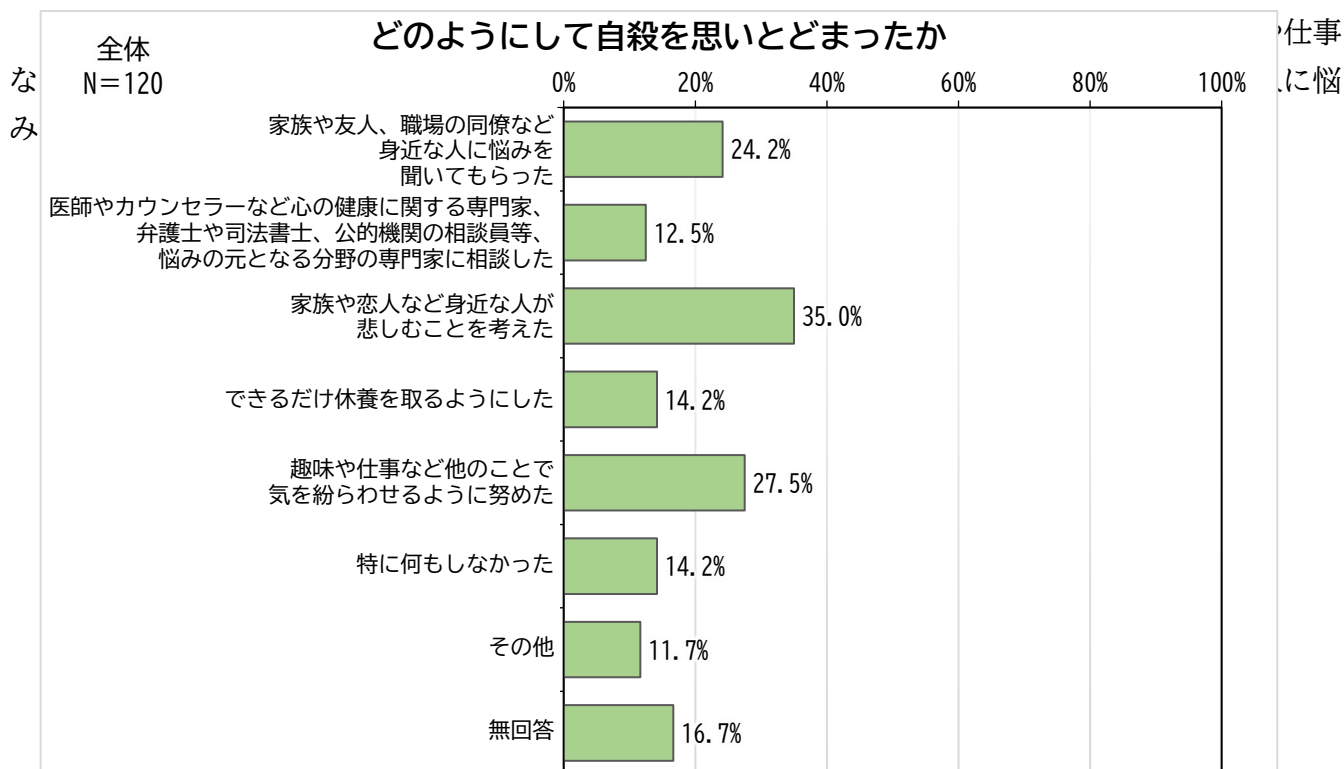
区分	10 歳代 N=4	20 歳代 N=5	30 歳代 N=23	40 歳代 N=21	50 歳代 N=26	60 歳代 N=18	70 歳代 N=17	80 歳以上 N=6
家庭に関すること	25.0%	20.0%	47.8%	33.3%	34.6%	44.4%	41.2%	16.7%
健康に関すること	0.0%	20.0%	17.4%	4.8%	11.5%	33.3%	17.6%	50.0%
経済的な問題	0.0%	20.0%	21.7%	28.6%	23.1%	11.1%	29.4%	33.3%
勤務に関すること	0.0%	40.0%	17.4%	19.0%	26.9%	5.6%	5.9%	0.0%
恋愛に関すること	25.0%	40.0%	13.0%	4.8%	7.7%	11.1%	5.9%	0.0%
学校問題	50.0%	40.0%	21.7%	23.8%	15.4%	0.0%	0.0%	0.0%
性自認、性的指向に関すること	0.0%	0.0%	4.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
自分の生き方に関すること	0.0%	100.0%	39.1%	19.0%	30.8%	22.2%	11.8%	0.0%
答えたくない	0.0%	0.0%	0.0%	4.8%	7.7%	11.1%	0.0%	16.7%
その他	25.0%	0.0%	26.1%	4.8%	7.7%	0.0%	23.5%	0.0%
無回答	0.0%	20.0%	8.7%	14.3%	7.7%	16.7%	47.1%	50.0%

【京都市のアンケート結果（令和 2 年度実施）との比較】

京都市のアンケート結果と比較すると、「家庭に関すること」が 3.1 ポイント、「健康に関すること」が 2.0 ポイント、「学校問題」が 4.1 ポイント高くなっています。

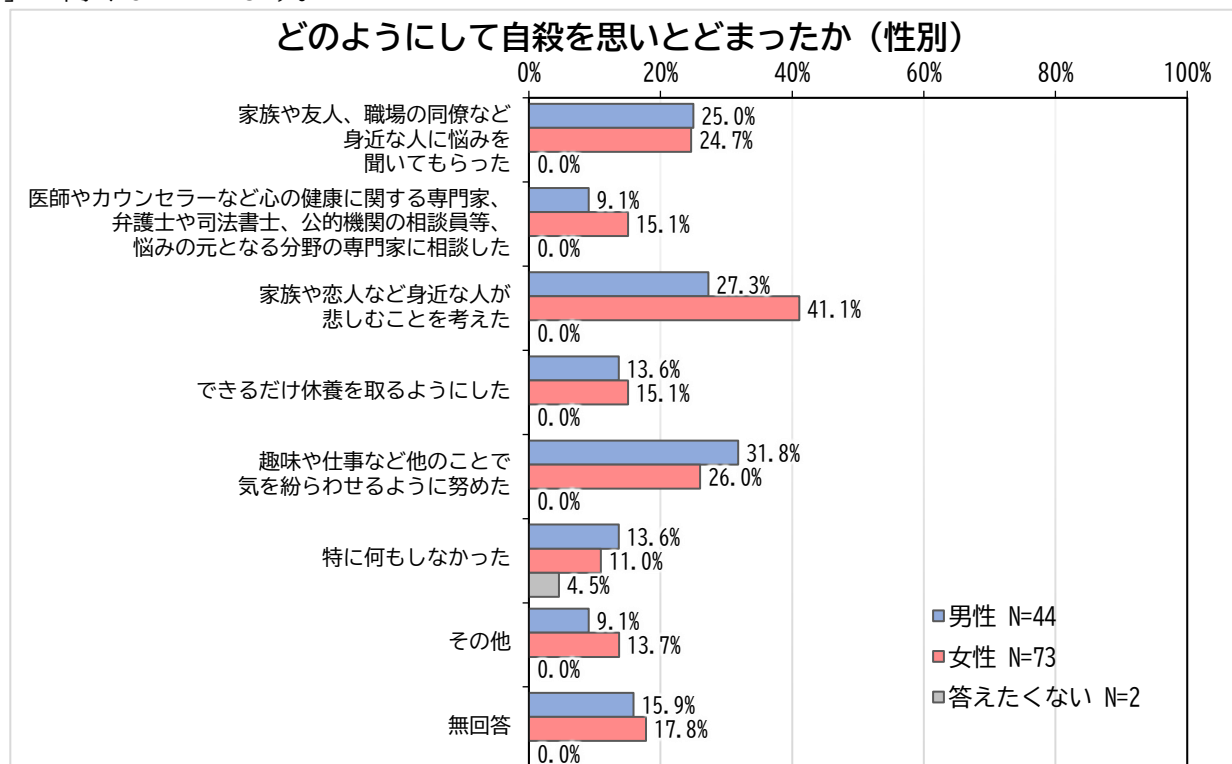


問 12-2 どのようにして自殺を思いとどまりましたか。(あてはまるもの全てに○)



【性別】

性別でみると、女性は男性より「家族や恋人など身近な人が悲しむことを考えた」と「医師やカウンセラーなど心の健康に関する専門家、弁護士や司法書士、公的機関の相談員等、悩みの元となる分野の専門家に相談した」の割合が、男性は女性より「趣味や仕事など他のことで気を紛らわせるように努めた」が高くなっています。



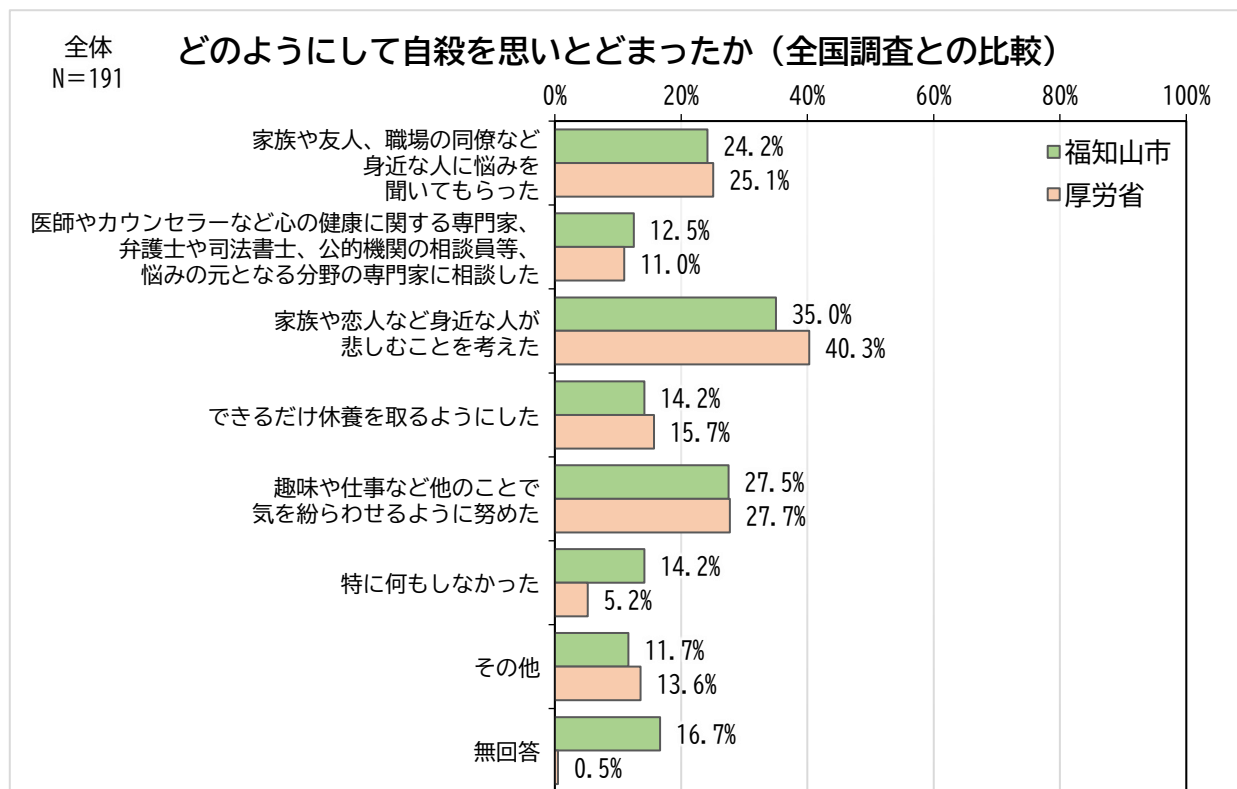
【年代別】

年代別でみると、10 歳代と 40 歳代から 60 歳代では「家族や恋人など身近な人が悲しむことを考えた」の割合が最も高くなっています。

区分	10 歳代 N=4	20 歳代 N=5	30 歳代 N=23	40 歳代 N=21	50 歳代 N=26	60 歳代 N=18	70 歳代 N=17	80 歳以上 N=6
家族や友人、職場の同僚など身近な人に悩みを聞いてもらった	25.0%	40.0%	34.8%	28.6%	26.9%	16.7%	5.9%	16.7%
医師やカウンセラーなど心の健康に関する専門家、弁護士や司法書士、公的機関の相談員等、悩みの元となる分野の専門家に相談した	0.0%	0.0%	8.7%	9.5%	23.1%	11.1%	5.9%	33.3%
家族や恋人など身近な人が悲しむことを考えた	50.0%	20.0%	26.1%	42.9%	30.8%	50.0%	29.4%	33.3%
できるだけ休養を取るようにした	25.0%	60.0%	13.0%	23.8%	11.5%	0.0%	11.8%	0.0%
趣味や仕事など他のことで気を紛らわせるように努めた	25.0%	80.0%	30.4%	19.0%	23.1%	22.2%	35.3%	16.7%
特に何もしなかった	0.0%	0.0%	13.0%	9.5%	3.8%	16.7%	35.3%	33.3%
その他	25.0%	0.0%	8.7%	19.0%	19.2%	5.6%	5.9%	0.0%
無回答	0.0%	20.0%	8.7%	14.3%	3.8%	22.2%	35.3%	50.0%

【厚生労働省のアンケート結果（令和 3 年度実施）との比較】

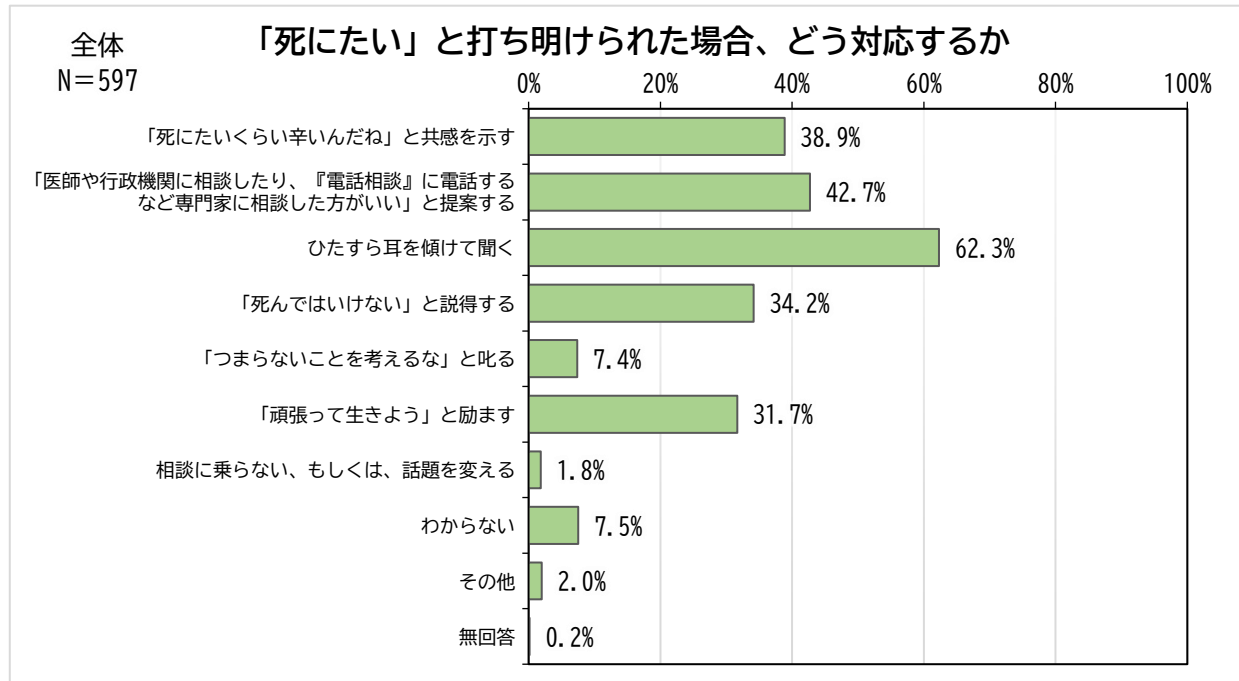
厚生労働省のアンケート結果と比較すると、「特に何もしなかった」が 9.0 ポイント、「医師やカウンセラーなど心の健康に関する専門家、弁護士や司法書士、公的機関の相談員等、悩みの元となる分野の専門家に相談した」が 1.5 ポイント高くなっています。



◆問 11 で「2. 本気で自殺をしたいと思ったことがない」と回答した方におうかがいします。

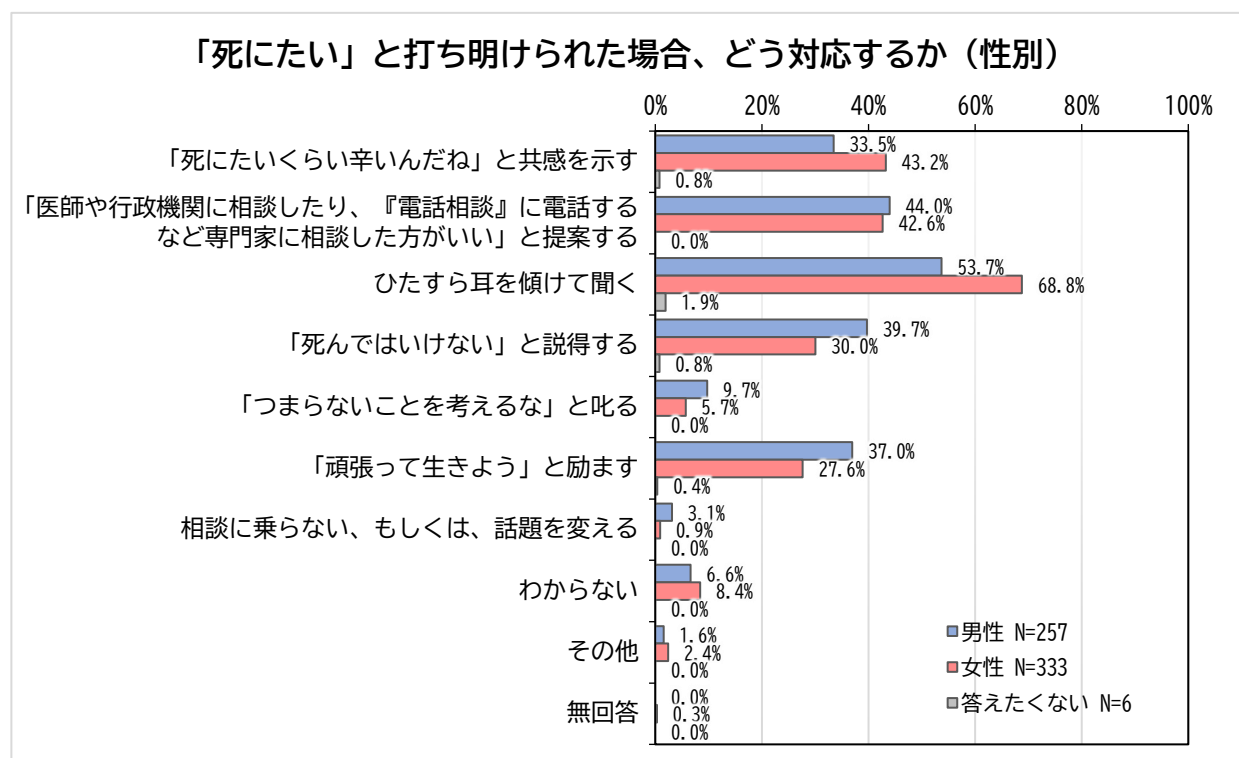
問 13 あなたは、もしも身近な人から「死にたい」と打ち明けられた場合、どう対応するのが良いと思いますか。(あてはまるもの全てに○)

「ひたすら耳を傾けて聞く」の割合が最も高く 59.4%、次いで「「医師や行政機関に相談したり、『電話相談』に電話するなど専門家に相談した方がいい」と提案する」38.2%、「自分の技術、能力、経験を活かしたい」の割合が 27.0%となっています。



【性別】

性別でみると、女性は男性より「ひたすら耳を傾けて聞く」と「死にたいくらい辛いんだね」と共感を示すの割合が、男性は女性より「頑張って生きよう」と励ますと「死んではいけない」と説得するが高くなっています。



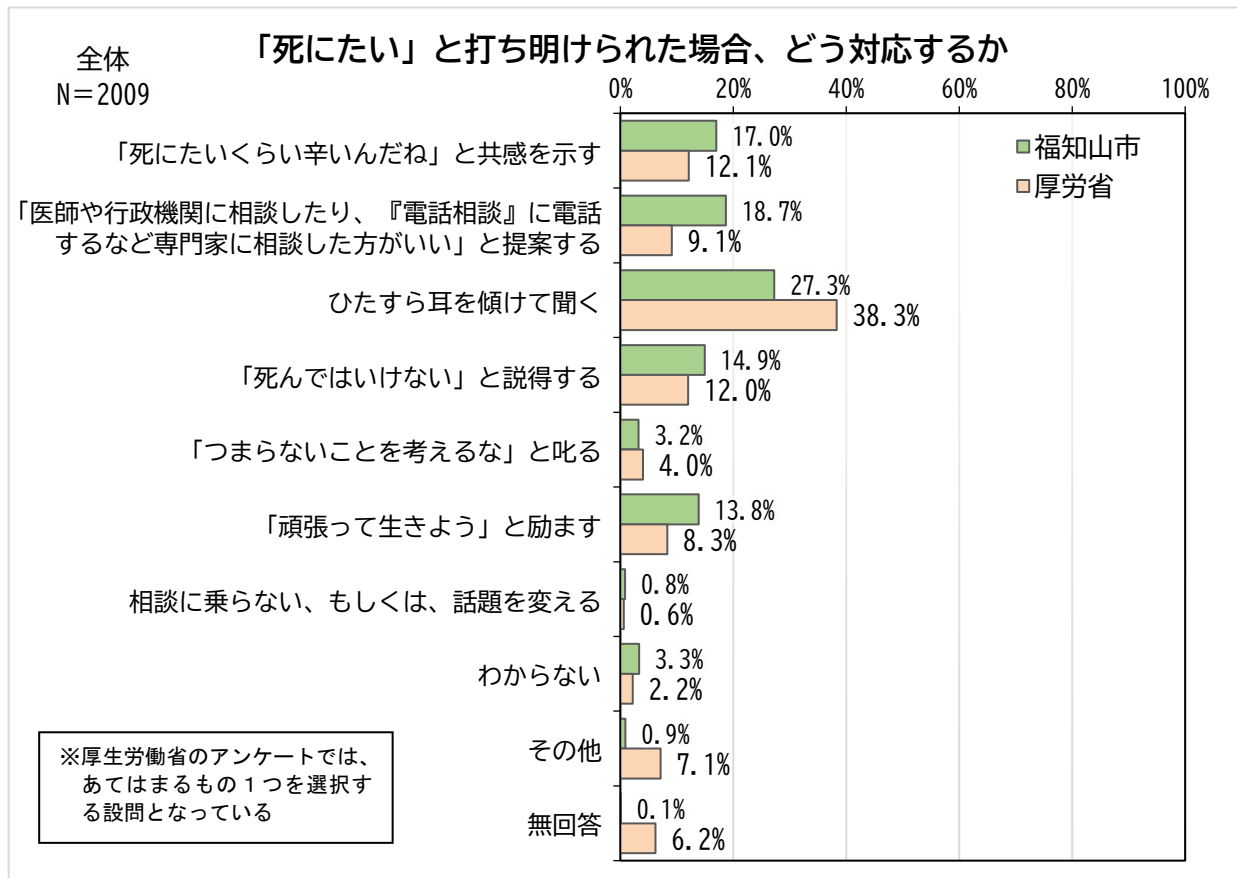
【年代別】

年代別でみると、10歳代から70歳代では「ひたすら耳を傾けて聞く」の割合が、80歳以上は「「頑張っ
て生きよう」と励ます」が最も高くなっています。

区分	10歳代 N=10	20歳代 N=36	30歳代 N=62	40歳代 N=71	50歳代 N=76	60歳代 N=126	70歳代 N=130	80歳以上 N=85
「死にたいくらい辛いんだね」と共感を示す	20.0%	52.8%	45.2%	49.3%	47.4%	35.7%	35.4%	24.7%
「医師や行政機関に相談したり、『電話相談』に電話するなど専門家に相談した方がいい」と提案する	20.0%	19.4%	25.8%	39.4%	40.8%	46.8%	55.4%	47.1%
ひたすら耳を傾けて聞く	80.0%	94.4%	79.0%	73.2%	72.4%	59.5%	49.2%	41.2%
「死んではいけない」と説得する	30.0%	22.2%	25.8%	16.9%	36.8%	41.3%	37.7%	42.4%
「つまらないことを考えるな」と叱る	0.0%	0.0%	6.5%	4.2%	3.9%	6.3%	11.5%	12.9%
「頑張っ て生きよう」と励ます	30.0%	11.1%	27.4%	12.7%	22.4%	33.3%	38.5%	54.1%
相談に乗らない、もしくは、話題 を変える	0.0%	5.6%	0.0%	0.0%	5.3%	0.0%	3.1%	1.2%
わからない	0.0%	0.0%	4.8%	12.7%	10.5%	6.3%	6.9%	9.4%
その他	0.0%	2.8%	1.6%	1.4%	2.6%	0.0%	1.5%	5.9%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.2%

【厚生労働省のアンケート結果（令和3年度実施）との比較】

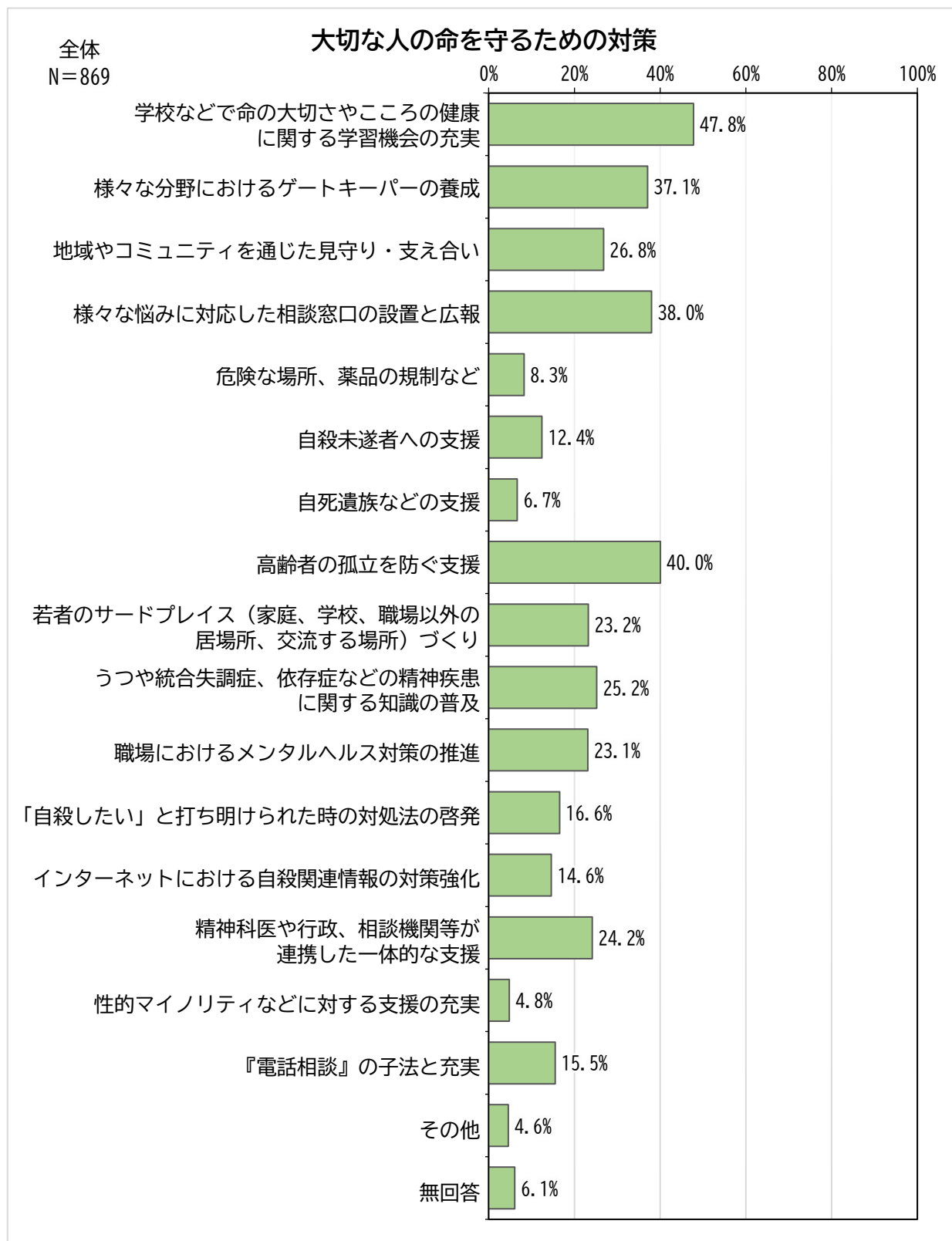
厚生労働省のアンケート結果と比較してもほぼ同様な傾向となっています。「ひたすら耳を傾けて聞く」の割合はともに最も高くなっています。



4 今後の自殺対策について

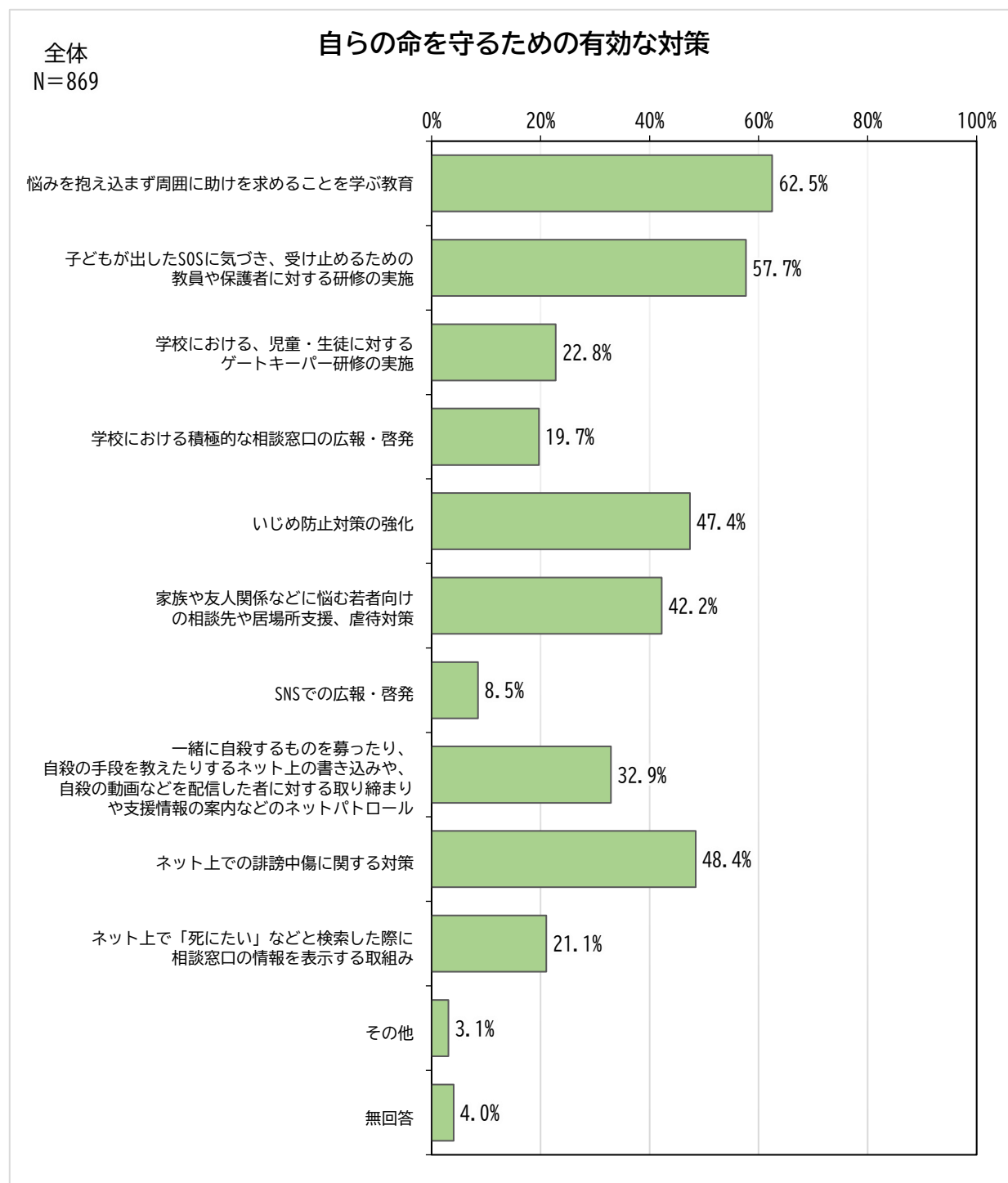
問 14 あなた自身やあなたの大切な人の命を守るためにはどのような対策が重要だと思いますか。(最もあてはまるもの5つまでに○)

「学校などで命の大切さやこころの健康に関する学習機会の充実」の割合が最も高く 47.8%、次いで「高齢者の孤立を防ぐ支援」が 40.0%、「様々な悩みに対応した相談窓口の設置と広報」が 38.0%、「様々な分野におけるゲートキーパーの養成」が 37.1%となっています。



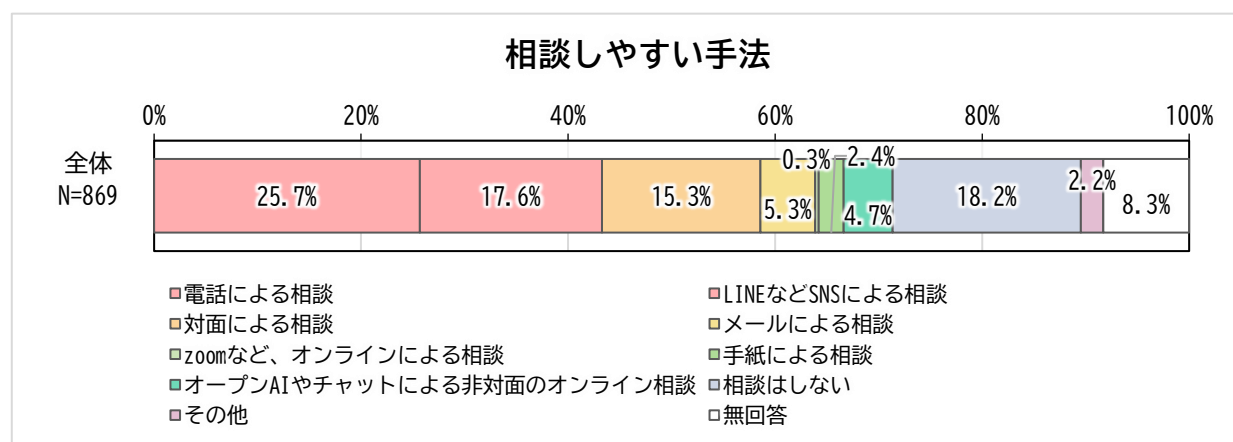
問 15 子どもや若者にとって、自らの命を守るための対策としてどれが有効だと思いますか。(最もあてはまるもの5つまでに○)

「悩みを抱え込まず周囲に助けを求めることを学ぶ教育」の割合が 62.5%と最も高く、次いで「子どもが出した SOS に気づき、受け止めるための教員や保護者に対する研修の実施」が 57.7%、「ネット上での誹謗中傷に関する対策」が 48.4%、「いじめ防止対策の強化」が 47.4%となっています。



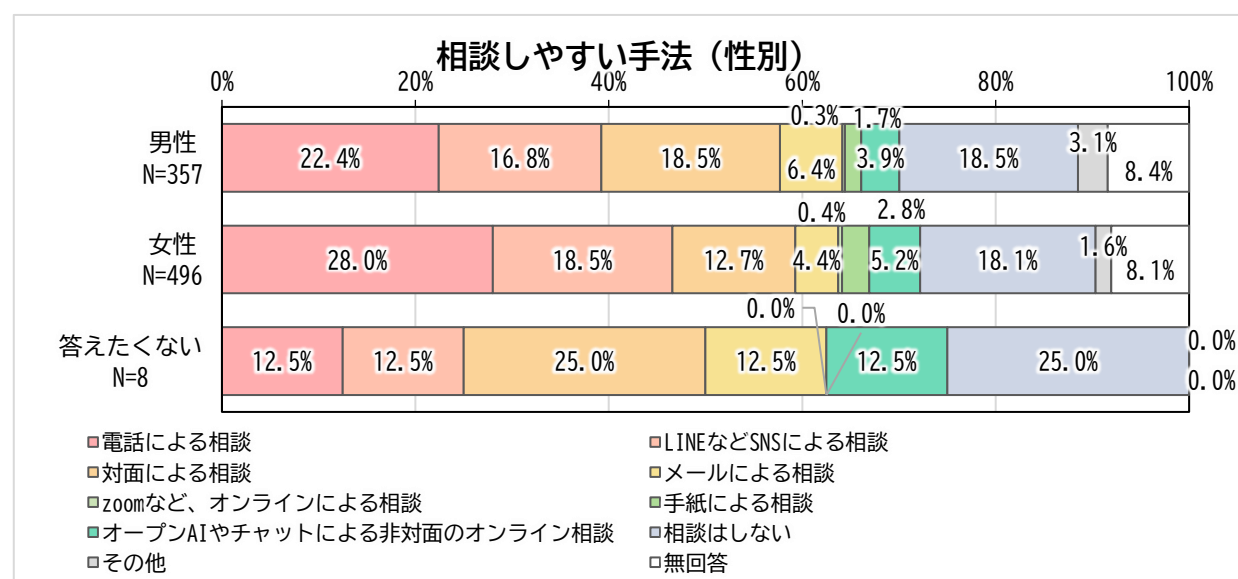
問 16 仮にあなたが自殺、またはそれに近いことを考えたとき、どのような手法だと相談しやすいと思いますか。(〇は1つ)

「電話による相談」の割合が最も高く 25.7%、次いで「相談はしない」が 18.2%、「LINE など SNS による相談」が 17.6%、「対面による相談」が 15.3%となっています。



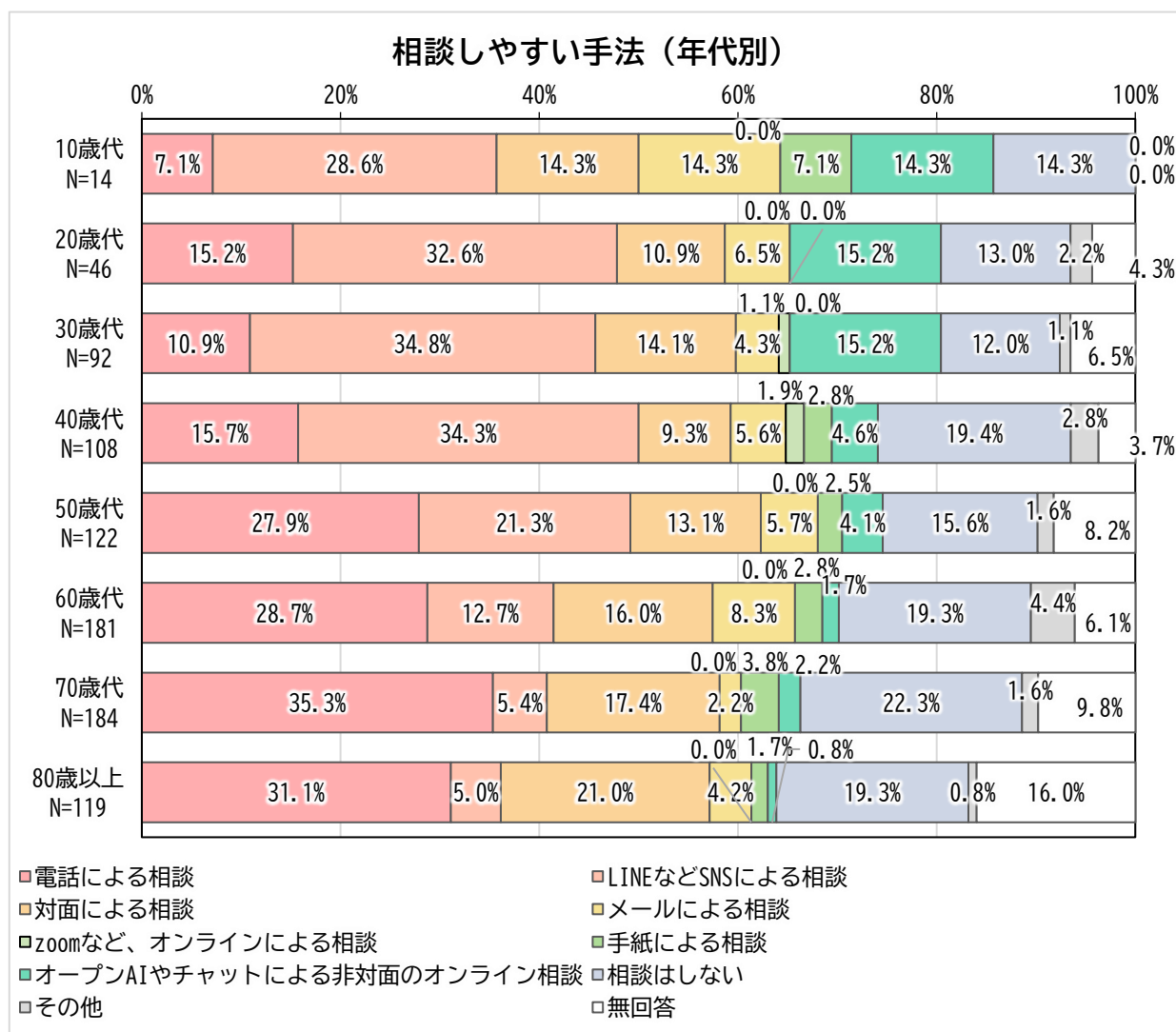
【性別】

性別でみると、男性は女性より「対面による相談」の割合が、女性は男性より「電話による相談」が高くなっています。



【年代別】

年代別でみると、10歳代から40歳代では「LINEなどSNSによる相談」の割合が、50歳以上では「電話による相談」が最も高くなっています。



5 自由意見について

問 17 最後に、福知山市の自殺防止対策全般について、あなたの自由な意見をお聞かせください。

電話相談だけでなく、チャット等の相談方法をもっと充実させてほしいといった相談窓口に関する意見、命の大切さについて考えるイベントの実施といった意識啓発・教育に関すること、市の自殺者の現状や取組を広報するといった情報発信についての意見が多く寄せられました。